

第二次千曲市生涯学習

基本構想・基本計画



千曲市

はじめに

千曲市の生涯学習基本構想が策定されてから 10 年が経過し、私たちを取り巻く社会はめまぐるしく変化しております。私たちも、社会活動の基盤となる新しい知識・情報・技術の変化に応じて、常に学んでいかなければなりません。生涯を通して学び続ける意識を持つことこそ、生涯学習社会の実現に向けた大切な第一歩となります。

千曲市第二次生涯学習基本構想・基本計画は、こうした趣旨を踏まえて多くの市民の皆様が生涯学習活動をとって楽しく学び、豊かな人生を築いていただきたいという願いを込めて策定いたしました。

学ぶことによって知識や視野が広がり、自分自身を成長させることができます。学ぶことで目標ができ、達成した先にはまた新しい目標ができます。そこに新たな喜びや感動が生まれ、充実した生活を送ることができます。人生を豊かに幸せにすることこそ生涯学習の目的であり、その役割は今後もますます重要になってくるものと思われます。

また、学ぶことで多くの交流が生まれ、新たな学習の輪が広がり、そこからいろいろなアイデアが生まれます。さらにそれを次世代に教え、伝えていくことによって、生涯学習活動が地域や市全体を発展させる原動力になっていくことを願いながら、市の生涯学習を推進してまいります。

市民の皆様には、この計画の目差すところをご理解いただき、市民総参加により、生涯にわたって学ぶことをとおして、豊かで充実した人生を築いていただけることを願っております。

終わりに、本基本構想・基本計画の策定にあたり、貴重なご意見やご提言をいただきました生涯学習推進本部員の皆様はじめ関係者の皆様、アンケートにご協力いただきました多くの市民の皆様に心から感謝を申し上げます。

平成 31 年 3 月

千曲市教育委員会

第二次千曲市生涯学習基本構想・基本計画 目次

基本構想の策定にあたって

1. 基本構想策定の趣旨	4
2. 構想の位置づけ	5
3. 構想及び計画の名称	5
4. 構想及び計画の期間	5

第二次千曲市生涯学習基本構想

第1章 生涯学習の意義

6

1. 生涯学習とは	6
2. 生涯学習の必要性	6

第2章 千曲市生涯学習の現状と課題

7

1. 前計画の成果について	7
---------------------	---

- (1) 心の豊かさを求めて
- (2) ライフステージに応じた学習機会の充実
- (3) 学校・家庭・地域との連携
- (4) 生涯学習を推進するために

2. 千曲市の現状	11
-----------------	----

- (1) 生涯学習への関心度
- (2) 生涯学習の必要性について
- (3) 現在の学習活動について
- (4) 千曲市の生涯学習活動について
- (5) 千曲市の施設の利用状況
- (6) 今後の学習活動について
- (7) 協働から見えてくるもの

3. 今後の課題	25
----------------	----

- (1) 生涯学習への理解と啓発
- (2) 生涯学習機会と情報の提供
- (3) 学習講座の見直しと今後の取り組み
- (4) 生涯学習活動への参加促進
- (5) 施設の利便性向上と利用促進
- (6) 学習還元の促進

第3章 千曲市が目指す生涯学習

28

1. 基本理念	28
2. 生涯学習推進の概要	28

第二次千曲市生涯学習基本計画

基本計画の位置づけ	30
基本構想・基本計画 体系図	31
第1章 学ぶ意識を高める	32
1. 健康づくりとスポーツの振興	32
2. 文化芸術の振興	33
3. 情報化・ネット社会に対応した学習の推進	34
4. ライフステージに合わせた学習の推進	34
(1) 乳幼児期の学び	
(2) 青少年期の学び	
(3) 成人期の学び	
(4) 熟年期の学び	
第2章 人と人がつながる	38
1. 国際化・多文化共生の推進	38
2. ボランティアの育成	39
3. 男女共同参画の推進	39
4. 人権学習の推進	40
5. 環境・景観学習の推進	40
6. 防災・安全学習の推進	41
7. 文化財・伝統行事の保護と伝承	42
8. 学校・家庭・地域との協働	42
第3章 新しい時代を拓く	44
1. 成果の発表と評価	44
2. 地域への還元	44
3. 生涯学習を推進するために	45
(1) 市民の役割	
(2) 地域社会の役割	
(3) 行政の役割	
(4) 他機関との協働	
資料	
千曲市生涯学習推進本部員名簿	48
千曲市社会教育委員名簿	48
策定までの主な経過	49
生涯学習に関する市民の意識調査について	50

基本構想の策定にあたって

1. 基本構想策定の趣旨

生涯学習とは、家庭教育、学校教育、社会教育、個人の学習など、人々が生涯にわたって取り組む学習のことで、誰もがいつでも、どこでも、どんなことでも学ぶことができるものです。そして、学習の成果が適切に評価される社会が生涯学習社会だとされています。

教育基本法第3条では、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」とあります。文部科学省はこの理念に基づき、生涯学習を推進しています。

市では、2009年（平成21年）に「千曲市生涯学習基本構想・基本計画」を策定しました。「学びを通じ、人と地域の魅力を高める」を基本理念に、生涯学習社会の実現に向けて、市民のニーズに応え、学習機会の提供や学習環境の整備など、さまざまな施策を展開してまいりましたが、この10年間で社会情勢は急激に変化してきており、それを受けて新たな構想・計画の策定が求められています。

少子高齢化による人口の減少や核家族化により、地域コミュニティは力を失いつつあります。また、進展する高度情報化、グローバル化、国際化への対応などは、国のみならず各自治体においても重要な課題となっています。特に、情報通信技術（ICT）の革新による社会インフラの大幅な刷新により、大量の学習関連情報が今よりもっとすばやく、ずっと容易に入手できる基盤が整い、生涯学習社会の環境は飛躍的に向上していきます。また、今後は、人工知能（AI）の普及による急激な社会変化が見込まれています。市では2017年度（平成29年度）から2026年度までの長期計画として「第二次千曲市総合計画」を策定し、生涯学習に関して、「生きがいや喜びを味わえる生涯学習環境をつくる」を施策として掲げ、各種事業を推進しています。

さらに、長野県が2018年に策定した「長野県総合5か年計画 しあわせ信州創造プラン 2.0」では、「確かな暮らしが営まれる美しい信州 ～学びと自治の力で拓く新時代～」を基本目標に掲げ、重点施策として「学びの県づくり」を提唱、これからの時

代は「学び」がキーワードになるとし、積極的に学ぶことを奨励しています。

将来に向け大きな期待が寄せられる「学び」(＝生涯学習)の推進には、今後も変化を続ける社会環境に合わせた施策が求められます。このようなことから、新しい時代に向けた生涯学習を推進するために、「第二次千曲市生涯学習基本構想・基本計画」を策定します。

2. 構想の位置づけ

第二次千曲市総合計画では目指すべき将来像を「科野の国 さらしな はにしな 史都がにぎわう 信州の交流拠点 千曲」と定め、将来にわたって魅力的な市であり続けることを目指しています。この総合計画では分野ごとに 6 つの基本目標を掲げており、「第二次千曲市生涯学習基本計画」は、総合計画の基本目標 2「安心して子育てができ、のびやかに育ち学べるまち」の中の達成方針「学びや芸術・スポーツを通じ、人と地域の魅力を高める（生涯学習スポーツ文化芸術）」に含まれる施策「生きがいや喜びを味わえる生涯学習環境をつくる」の実現に向けて策定する個別計画です。総合計画に盛り込まれた多くの施策に含まれる生涯学習的な側面を取り上げて計画を推進します。

3. 構想及び計画の名称

「第二次千曲市生涯学習基本構想・基本計画」とします。

4. 構想及び計画の期間

基本構想は 2019 年度から 2028 年度までの 10 か年とします。基本計画の実施期間は 2019 年度から 2023 年度までの 5 か年とし、必要に応じて改定します。

第二次千曲市生涯学習 基本構想

第1章 生涯学習の意義

1. 生涯学習とは

生涯学習とは、学校教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など、さまざまな場や機会において行う学習の意味で用いられています。学習といっても小・中・高校や専門学校、短大・大学、カルチャーセンターなどで行う教養的なものばかりでなく、暮らしに必要な知識や技能などを含め、広範囲にわたる学びが生涯学習であるとされています。

そして、誰もが、いつでも、どこでも、どんなことでも、好きなときに、自発的に学べる社会が生涯学習社会です。

2. 生涯学習の必要性

幼児期からしつけや集団生活をとおして社会的なルールを学ぶように、人はどんなときでも必要に応じてルールや決まりを学ばなければなりません。幼児教育では基礎的な知識、学校教育では学力が求められます。社会に出れば相応の知識や技能、成人や熟年になればより深い知恵が求められ、人に教える立場で学ばなければならないこともあります。長い人生の中では、その場、そのときに応じた学びが必要になってきます。

このように私たちの人生には学習が欠かせず、生活の中で覚え、経験する知識や知恵は、すべて生涯学習であると捉えられるものです。そして生涯学習の必要性がより高まってきている要因には、次のようなことが挙げられます。

私たちを取り巻く社会は常に変化し、新しい技術や産業が生まれます。それに併せ、新しい知識や技能の習得がその都度要求されます。

従来の学歴社会も、次第に、社会に出てからの学びや経験を重視するようになり、企業などでは研修や資格取得などを積極的に進め、その人がどれだけ学んだかで評価されるようになってきました。

社会通念も、仕事重視から家庭や個人を大切にする風潮に変化し、週休2日制や労働時間短縮が定着するなかで、個人の自由な時間が増えてきました。加えて今日のような高齢化社会では、誰もが元気で長生きすることを望み、生きがいを求めて暮らしています。こうしたことから、心の豊かさを学習に求める傾向が強まってきました。

新しい知識や技能の習得は自分を高めます。学んだ経験で得た評価は次の意欲につながり、自分を磨きます。心を豊かにする学習は人に生きがいをもたらします。自己を高め、磨き、生きがいを持って幸せな人生を送ることこそ、生涯学習が目指すものです。

第2章 千曲市生涯学習の現状と課題

1. 前計画の成果について

2009（平成21）年に策定した「千曲市生涯学習基本構想・基本計画」では、以下の4つを柱として推進してきました。

- （1）心の豊かさを求めて（多様な学習活動の推進）
- （2）ライフステージに応じた学習機会の充実（生涯を通じての学習機会の充実）
- （3）家庭・学校・地域との連携（地域社会全体で教育の向上に取り組む）
- （4）生涯学習を推進するために（生涯学習推進体制の整備）

計画期間である2010年度から2018年度（平成22年度～平成30年度）までの各分野の施策が、どのように実施されたか検証します。指標は、平成20年度を基準値とし、平成25年度の目標値を定め、平成29年度は実績値を表しています。

（1）心の豊かさを求めて（多様な学習活動の推進）

・健康な心や体をつくるため

生活習慣病予防を中心に健康づくりや食育の推進を行いました。スポーツではスポーツ教室や各種大会の開催により、スポーツ活動を週に1回以上行っている成人の割合は平成29年度で50.4%と比較的高いことが分かりました。

指 標	平成20年度 (基準値)	平成25年度 (目標値)	平成29年度 (実績値)
スポーツ活動を週に1回以上行っている成人の割合	43.9%	50.0%	50.4%

・文化芸術を大切にし、次世代に継承するために

文化芸術活動の振興、伝統文化の伝承活動の推進、文化財の保護と継承を実施しました。

歴史的資源の継承について普通以上(※)と感じている市民の割合が減っているため、市内の歴史的資源を調査して、文化財として活用していくことを検討する必要があります。

指 標	平成 20 年度 (基準値)	平成 25 年度 (目標値)	平成 29 年度 (実績値)
文化芸術施設の整備や文化芸術活動について普通以上と感じている市民の割合	44.9%	76.0%	38.1%
伝統行事の継承について普通以上と感じている市民の割合	40.1%	66.0%	40.6%
歴史的資源の継承について普通以上と感じている市民の割合	56.2%	76.0%	50.0%

・豊かな国際性を育むために

国際理解のための学習や交流の推進、外国籍市民との交流の促進を図りました。市民に外国人への理解をもっと深めてもらうことが今後の課題です。

・互いが尊重される社会をつくるために

市内全地区で人権教育研修会などを通じ人権意識の高揚を図りました。

・男女共同参画をすすめるために

セミナーや団体支援などで男女共同参画意識の高揚を図りましたが、引き続き男女共同参画社会に向けた取り組みや、市の審議会等における女性の参画率などが今後の課題です。

指 標	平成 20 年度 (基準値)	平成 25 年度 (目標値)	平成 29 年度 (実績値)
男女共同参画社会に向けた取り組みについて普通以上と感じている市民の割合	31.9%	55.0%	27.5%
市の審議会等における女性の参画率	26.6%	40.0%	27.2%

・暮らしやすいまちをつくるために

地域コミュニティの充実、千曲市の環境・景観づくりのための学習の拡充、安心・安全なまちづくり等を実施しました。買い物時のマイバック持参率が増えるなど、市民の環境意識も向上しています。

指 標	平成 20 年度 (基準値)	平成 25 年度 (目標値)	平成 29 年度 (実績値)
買い物時のマイバックの持参率	40.0%	60.0%	63.5%
親子の環境学習や科学に親しむ教室の開催	年 40 件	年 50 件	年 46 回

・高度情報化に対応するために

高度情報化に関する学習の推進を行い、ふれあい情報館において、指定管理者「エリア

ネット更埴」による IT 講座を実施しました。

指 標	平成 20 年度 (基準値)	平成 25 年度 (目標値)	平成 29 年度 (実績値)
ふれあい情報館の利用者数 (IT 講座等の利用者数)	19,035 人	20,000 人	25,496 人

(2) ライフステージに応じた学習機会の充実

・乳幼児期

乳幼児教育の充実、安心して子育てができる環境づくり、子育て家庭への相談・支援を実施しました。

指 標	平成 20 年度 (基準値)	平成 25 年度 (目標値)	平成 29 年度 (実績値)
子育て支援センター年間利用者数	22,664 人	50,000 人	37,328 人
ファミリー・サポート・センターの年間利用者数	641 人	1,000 人	898 人

・少年期

創造性・社会性に富んだ「千曲っ子」の育成、家庭の教育力の向上を実施しました。放課後や土曜・休日にスポーツに親しむ子どもの数を増やすことが今後の課題です。

指 標	平成 20 年度 (基準値)	平成 25 年度 (目標値)	平成 29 年度 (実績値)
他地域の子どもの交流活動の開催数(子ども会を育成する会及び市等の行事で開催した交流会の回数)	3 回	4 回	4 回
放課後や土曜・休日にスポーツに親しむ子どもの数(月1回以上、スポーツ少年団に加入している団体で活動している市内の全小学生の割合)	18.0%	20.0%	10.8%
朝食を毎日食っている児童の割合	87.0%	90.0%	89.3%

・青年期、成人期、熟年期

指 標	平成 20 年度 (基準値)	平成 25 年度 (目標値)	平成 29 年度 (実績値)
公民館の高齢者を対象とした講座の数	72 講座	85 講座	70 講座

各世代に応じた学習活動の充実と支援を行いました。成人期では就業者が参加しやすい内容・日時や時間帯での講座開設の検討が必要です。

(3) 学校・家庭・地域との連携

地域ぐるみで学校を支援する活動の推進、居場所づくり、体験・交流活動の場づくりを行いました。子どもたちの健全育成や安全をサポートする市内の青少年健全育成協力登録店舗（ひまわりっ子登録店舗）の数は、目標を超えることができました。放課後子ども教室数は1教室のみで今後形態を見直していく必要があります。

指 標	平成 20 年度 (基準値)	平成 25 年度 (目標値)	平成 29 年度 (実績値)
ひまわりっ子登録店舗数の割合(千曲市内の青少年健全育成協力登録店舗数)	65.0%	70%	85%

指 標	平成 20 年度 (基準値)	平成 25 年度 (目標値)	平成 29 年度 (実績値)
放課後子ども教室数	2 教室	4 教室	1 教室

(4) 生涯学習を推進するために

生涯学習推進体制の整備を進め、多様な学習情報の収集と提供を行いました。学習相談の充実、指導者の充実、他機関との連携を進め、学んだ成果を地域社会に還元するため、学習の成果（評価）と発表の場の確保、学習成果の活用を行いました。また、公民館などで成人講座、市民講座、高齢者学級などの学習講座を開設したほか、生涯学習施設の整備・充実を図りました。今後は、講座の精査に加え、指導者の発掘や養成を充実させ、人材バンク登録者を増やしていく対策が求められます。

指 標	平成 20 年度 (基準値)	平成 25 年度 (目標値)	平成 29 年度 (実績値)
生涯学習人材バンク登録者数	64 人	80 人	16 人、10 団体

指 標	平成 20 年度 (基準値)	平成 25 年度 (目標値)	平成 29 年度 (実績値)
生涯学習出前講座利用件数	62 件	80 件	45 件

指 標	平成 20 年度 (基準値)	平成 25 年度 (目標値)	平成 29 年度 (実績値)
生涯学習の講座数(公民館の学級・講座数)	161 講座	180 講座	138 講座

2. 千曲市の現状

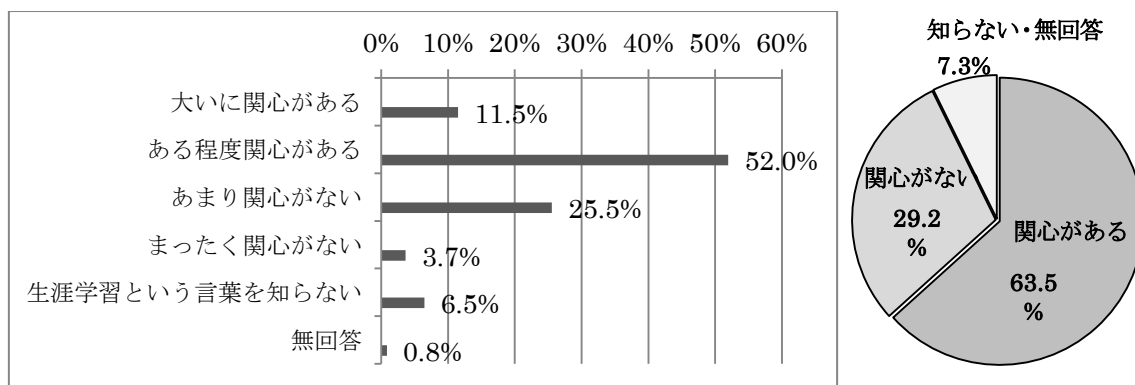
2018年（平成30年）8月に実施した「生涯学習に関する市民意識調査」では、356人の市民の皆様から回答が寄せられました。そのアンケート結果から、市民の生涯学習への取り組みについて、現状を把握し検証します。

（1）生涯学習への関心度

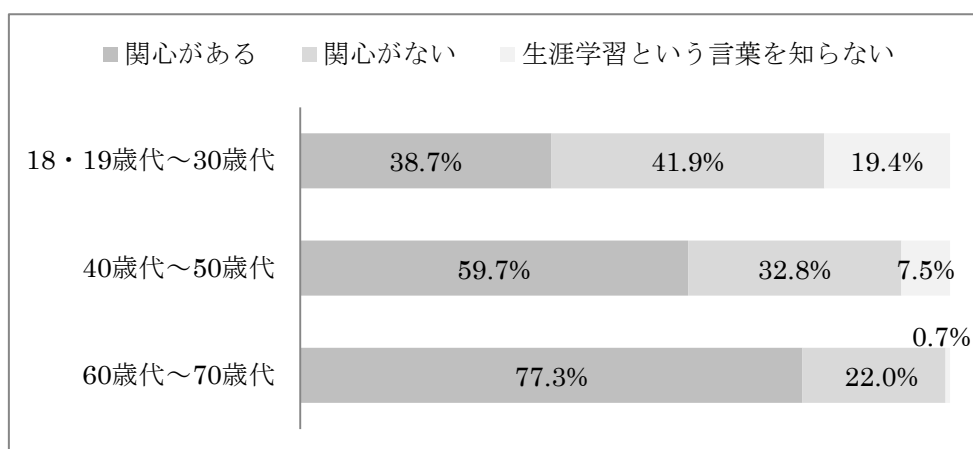
市民の生涯学習に対する関心度は、次のグラフのとおりとなっています。このうち「大いに関心がある」、「ある程度関心がある」と答えた人は、全体の63.5%で、市民が生涯学習に高い関心を持っていることが分かります。ただし、60歳代以上の関心度が77.3%であるのに対し、30歳代以下は38.7%で、若年層の生涯学習への関心度が低いのが現状です。

「生涯学習という言葉を知らない」と答えた人は6.5%あり、そのうち大半が30歳代までに集中しています。今後、生涯学習に関する啓発を推進していくためには、若年層への対策に力を入れていくことが求められます。

生涯学習の関心度



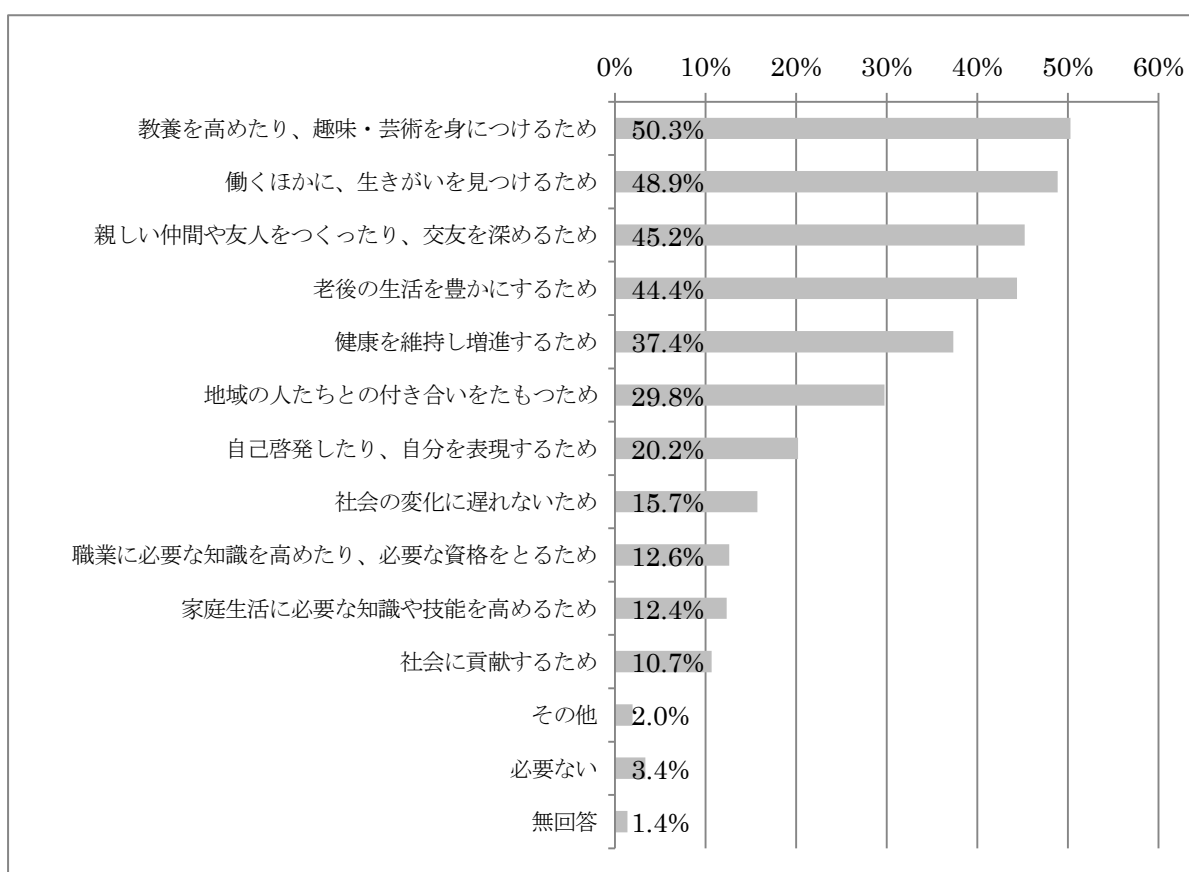
年代別生涯学習の関心度



（２）生涯学習の必要性について

「生涯学習がなぜ必要だと思うか（複数回答可）」の回答では、「教養を高めたり、趣味・芸術を身につけるため」と答えた人が、全体の 50.3%と一番多く、次いで「働くほかに、生きがいを見つけるため」、「親しい仲間や友人をつくったり、交友を深めるため」となっています。「必要ない、無回答」は 4.8%で、大半の市民が生涯学習の必要性を認識していることが分かります。

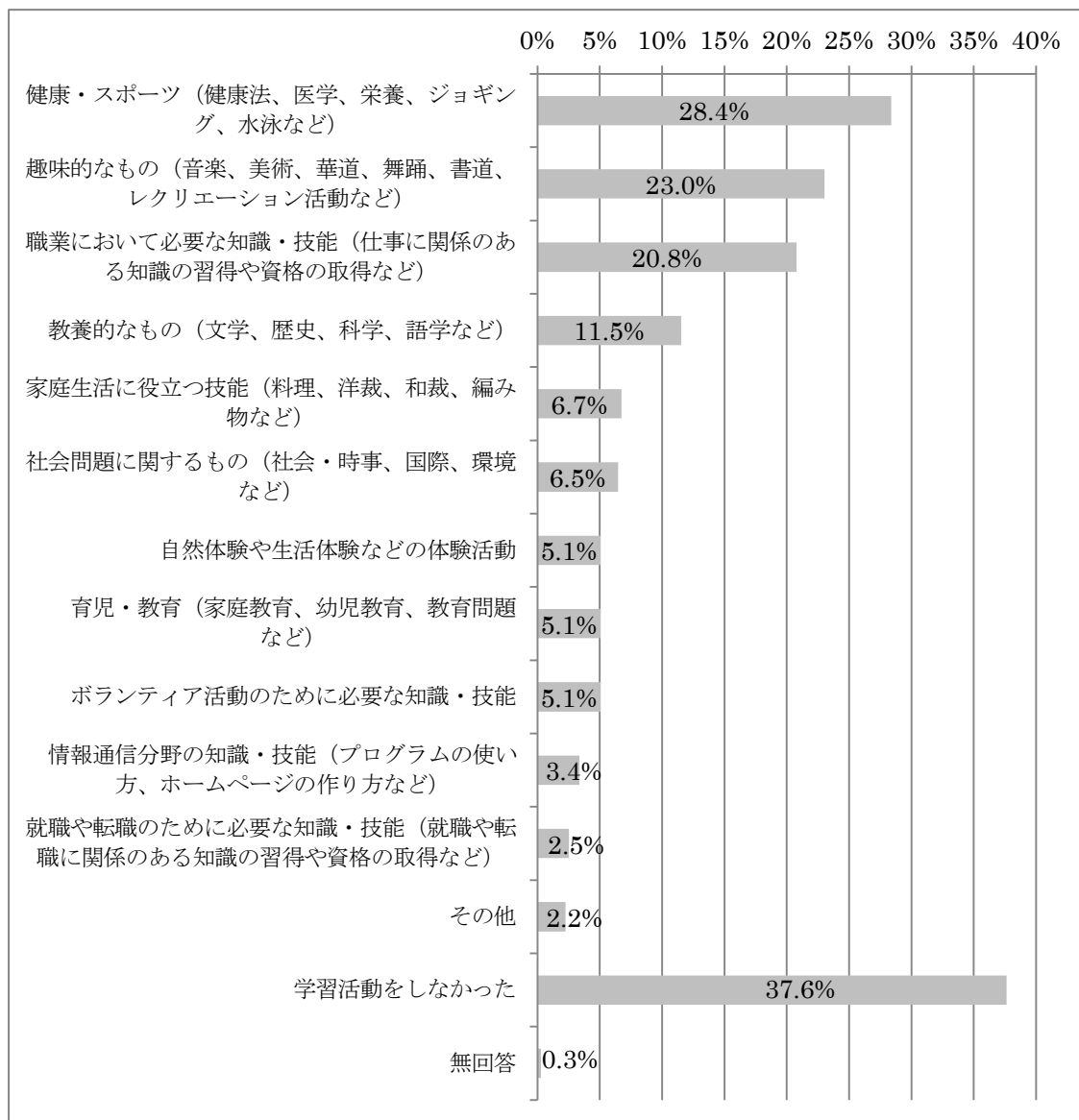
生涯学習はなぜ必要か（複数回答可）



（３）現在の学習活動について

この１年間で生涯学習をしなかった人は全回答者の 37.6%で、無回答（0.3%）を除く 62.1%の人はなんらかの学習活動を行っています。学習活動をした人のうち、どんな学習活動をしたかという問いに対する答えでは、「健康・スポーツ」が全回答者の 28.4%と一番多く、次いで「趣味的なもの」、「職業において必要な知識・技能」となっています。年齢別でみると、18・19 歳では教養的なもの、20～40 歳代では「職業において必要な知識・技能」、50～60 歳代では「健康・スポーツ」、70 歳代では「趣味的なもの」が最も多くなっています。

1年以内に行った学習活動



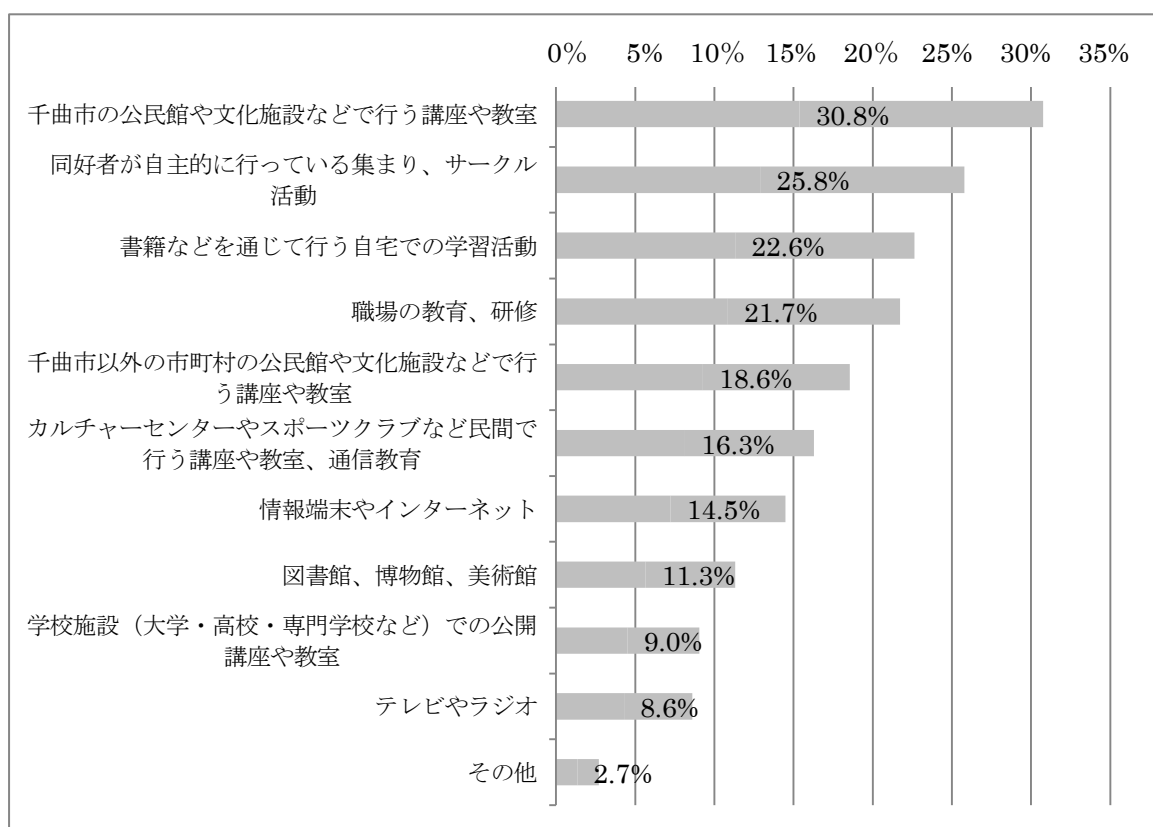
学習活動、年代別回答数の多い順

年 齢	1 位	2 位	3 位
18・19 歳～	教養的なもの	趣味的なもの	健康・スポーツ
20 歳～	職業において必要な知識・技能	健康・スポーツ	趣味的なもの
30 歳～	職業において必要な知識・技能	健康・スポーツ	趣味的なもの
40 歳～	職業において必要な知識・技能	健康・スポーツ	趣味的なもの
50 歳～	健康・スポーツ	職業において必要な知識・技能	趣味的なもの
60 歳～	健康・スポーツ	趣味的なもの	職業において必要な知識・技能
70 歳～	趣味的なもの	健康・スポーツ	家庭生活に役立つ技能

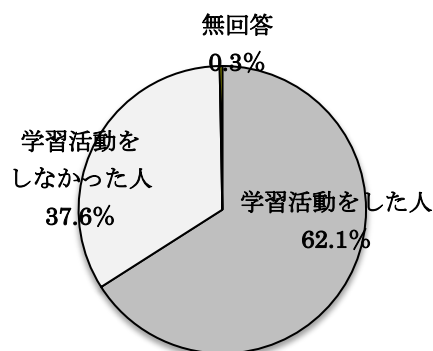
学習活動をどんな場所や方法で行ったかについては、「千曲市の公民館や文化施設などで行う講座や教室」が回答者の 30.8%と一番多く、次いで「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」、「書籍などを通じて行う自宅での学習活動」の順でした。学習活動をした人のほぼ 3 人にひとりが、市で行う講座や教室を利用したことになり、市での生涯学習の推進は一定の成果があったと判断できます。

「千曲市以外の市町村の公民館や文化施設などで行う講座や教室」が、回答者の 18.6%あることから、今後その実態を調べていく必要があります。勤めの都合や距離的な問題はどうか、講座に人気があるのかなどを分析し、今後の千曲市の講座や教室に反映したいと考えます。

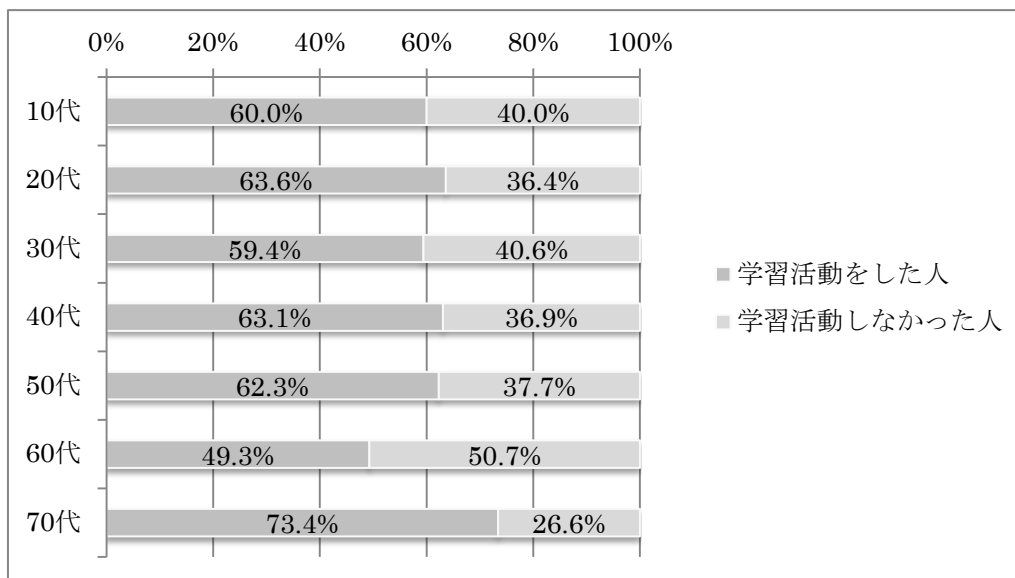
学習場所と方法



この 1 年間に学習活動をした人は、回答者全体の 62.1%でした。しなかった人は 37.6%で、年齢別でみると 60 歳代と 30 歳代で多くなっています。60 歳代を除けば、学習をした人がしなかった人より多く、市民の学習意欲の高さがうかがえます。



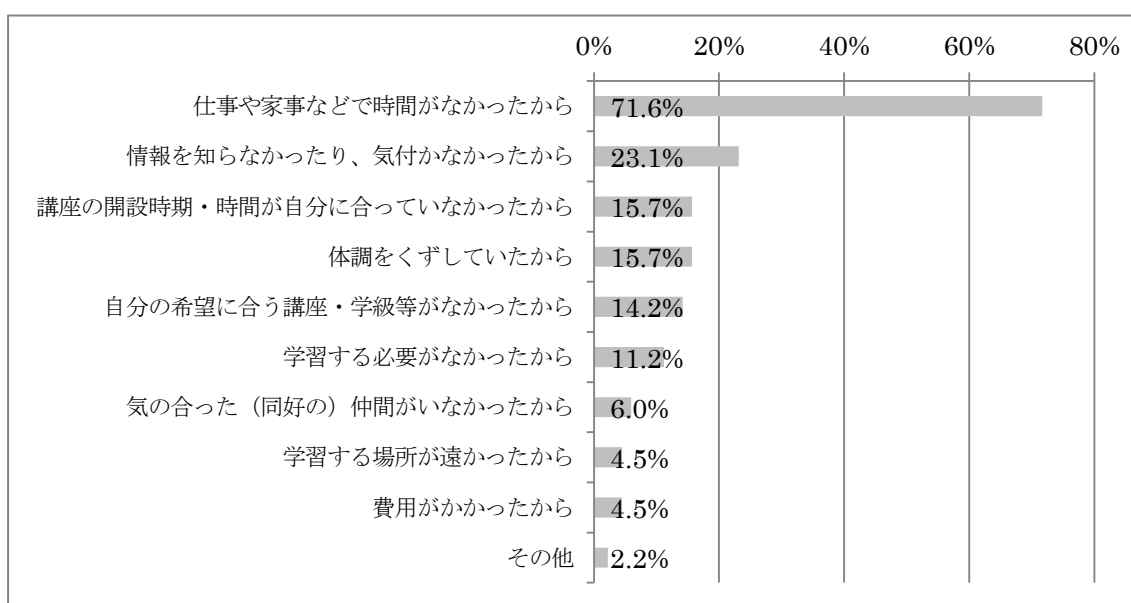
年代別学習状況（％は年代別に分けた回答数の合計から算出したもの）



「学習活動をしなかった」と答えた人の中で、活動しなかった理由としては、「仕事や家事などで時間がなかったから」が 71.6%と際立って多くなっています。これは 20～60 歳代までの男女共に、一番多い要因となっています。

18～40 歳代までは、「情報を知らなかったり、気付かなかったから」も多く、70 歳代では「体調をくずしていたから」との回答が一番多くなっています。

学習活動をしなかった理由（％は学習活動をしなかったと回答した人に対する割合）

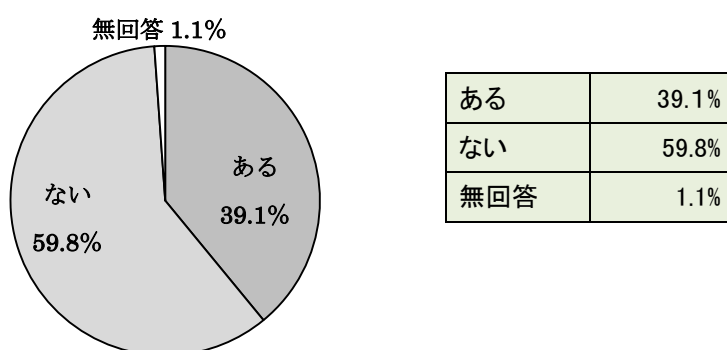


学習しなかった理由、年代別回答数の多い順

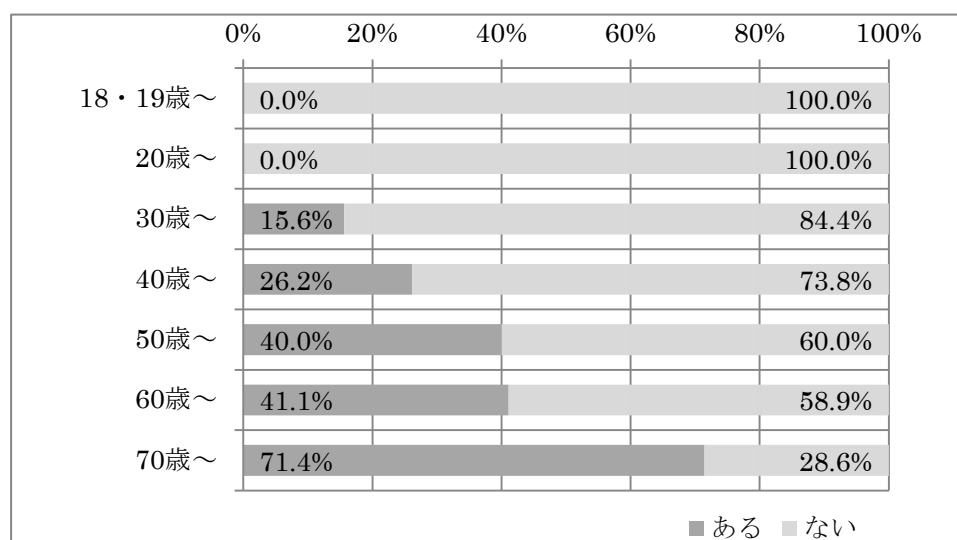
年 齢	学習しなかった理由 1 位	学習しなかった理由 2 位
18・19 歳～	情報を知らなかったり、気付かなかったから	仕事や家事などで時間がなかったから
20 歳～	仕事や家事などで時間がなかったから	情報を知らなかったり、気付かなかったから
30 歳～	仕事や家事などで時間がなかったから	情報を知らなかったり、気付かなかったから
40 歳～	仕事や家事などで時間がなかったから	情報を知らなかったり、気付かなかったから
50 歳～	仕事や家事などで時間がなかったから	自分の希望に合う講座・学級等がなかったから
60 歳～	仕事や家事などで時間がなかったから	講座の開設時期・時間が自分に合っていなかったから
70 歳～	体調をくずしていたから	仕事や家事などで時間がなかったから

(4) 千曲市の生涯学習活動について

今までに千曲市の講座やイベントに参加したことが「ある」人は39.1%、「ない」人は59.8%でした。18～20歳代は参加したことがある人はなく、30～60歳代までは「ない」と回答した人が上回りましたが、70歳代では71.4%の人が「ある」と答えています。



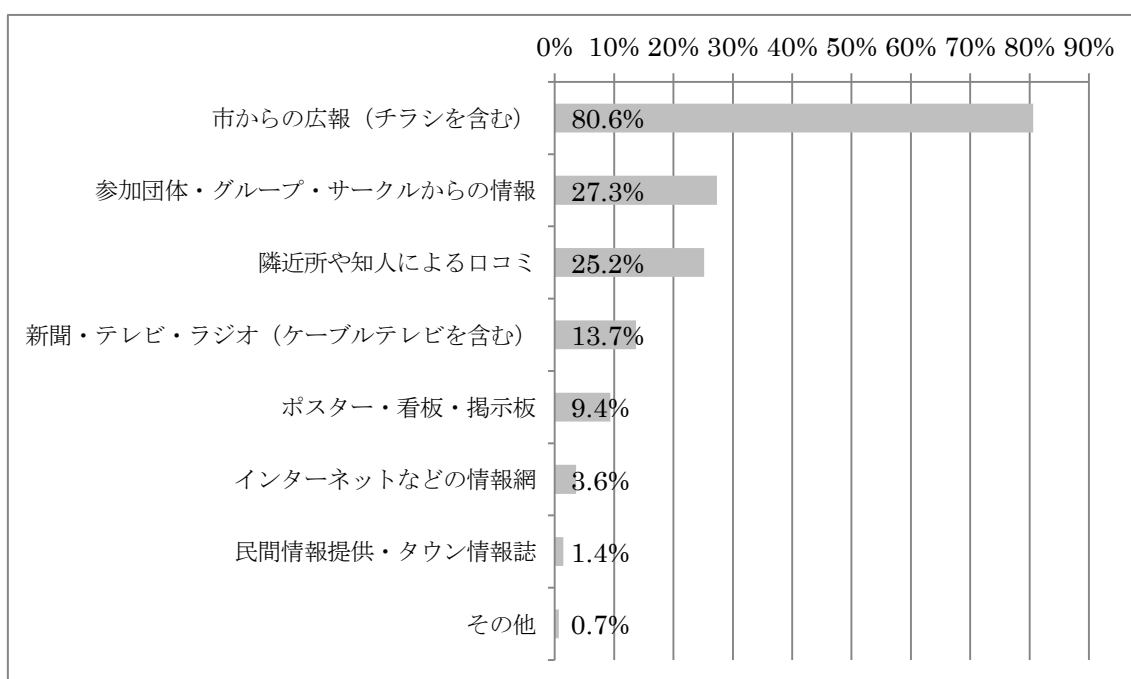
千曲市の講座やイベントに参加したことがある人とない人の年齢別割合



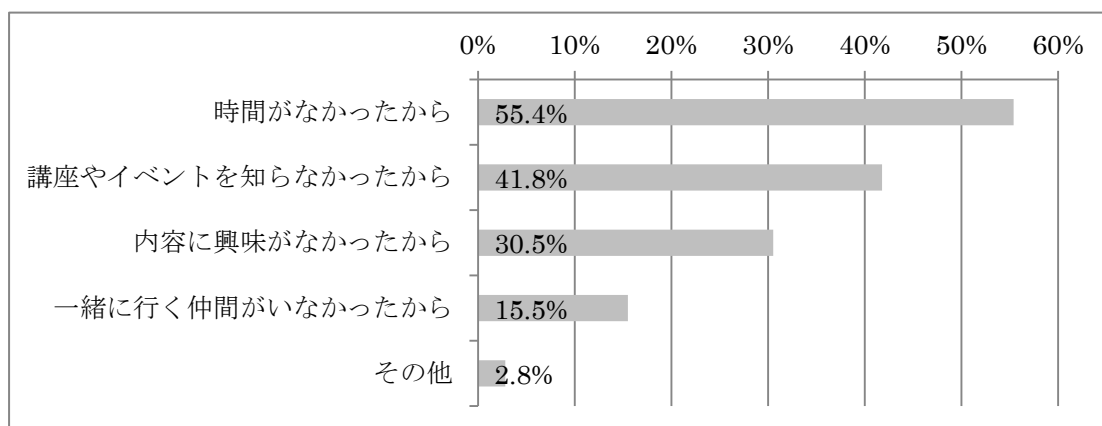
「ある」と回答した人のうち、知った方法は「市からの広報（チラシを含む）」が 80.6%と最も多く、次いで「参加団体・グループ・サークルからの情報」、「隣近所や知人による口コミ」となっています。ほとんどの人が市の講座やイベントでは、市報やチラシで情報を得ている実態が分かり、市からの情報提供の効果がある程度あったと考えられます。

「インターネットなどの情報網」、「民間情報提供・タウン情報誌」は意外と少ないのが特徴で、利用者が少ないのか、それとも情報内容が不足しているのかなどを検証していく必要があります。

講座・イベントの情報をどのように知ったか（参加した人）



講座・イベントに参加しなかった理由



参加したことが「ない」と答えた人の理由では、「時間がなかったから」が 55.4%と最も多く、次いで「講座やイベントを知らなかったから」が 41.8%となっています。「内容に興味なかったから」も 30.5%と多く、今後は講座やイベント情報をどのように告知していくか、どんな内容に興味を持ってもらえるかなども検討していく必要があります。

（５）千曲市の施設の利用状況

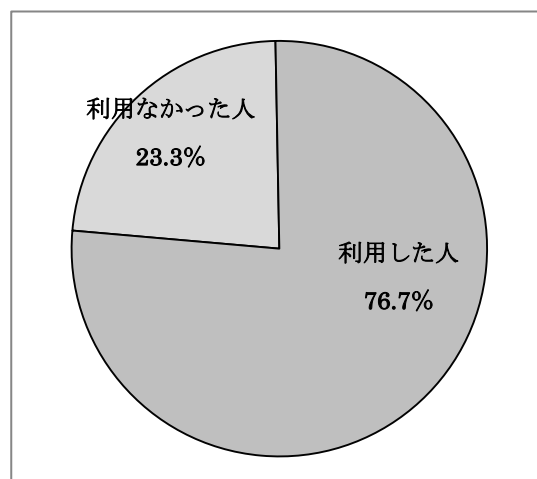
生涯学習に関する千曲市の施設のこの１年間の利用状況を聞いてみたところ、次図のような結果になりました。このうち、図書館が回答者全体の 28.9%にのぼり、最も多い利用がありました。このほか公民館や更埴文化会館、戸倉創造館などの文化施設への利用が目立ちました。

スポーツ施設としては体育館が最も多い 13%で、全体的に利用したと答えた人の割合は低くなっています。これは、市民に占める特定のスポーツを行う人の割合がそれぞれ低いことに起因するため、一概に施設の利用率が低いとは結論付けられません。これらのスポーツ施設については、施設ごとの実際の稼働率等を参考にして利用の低い施設を把握し、改善に努めます。

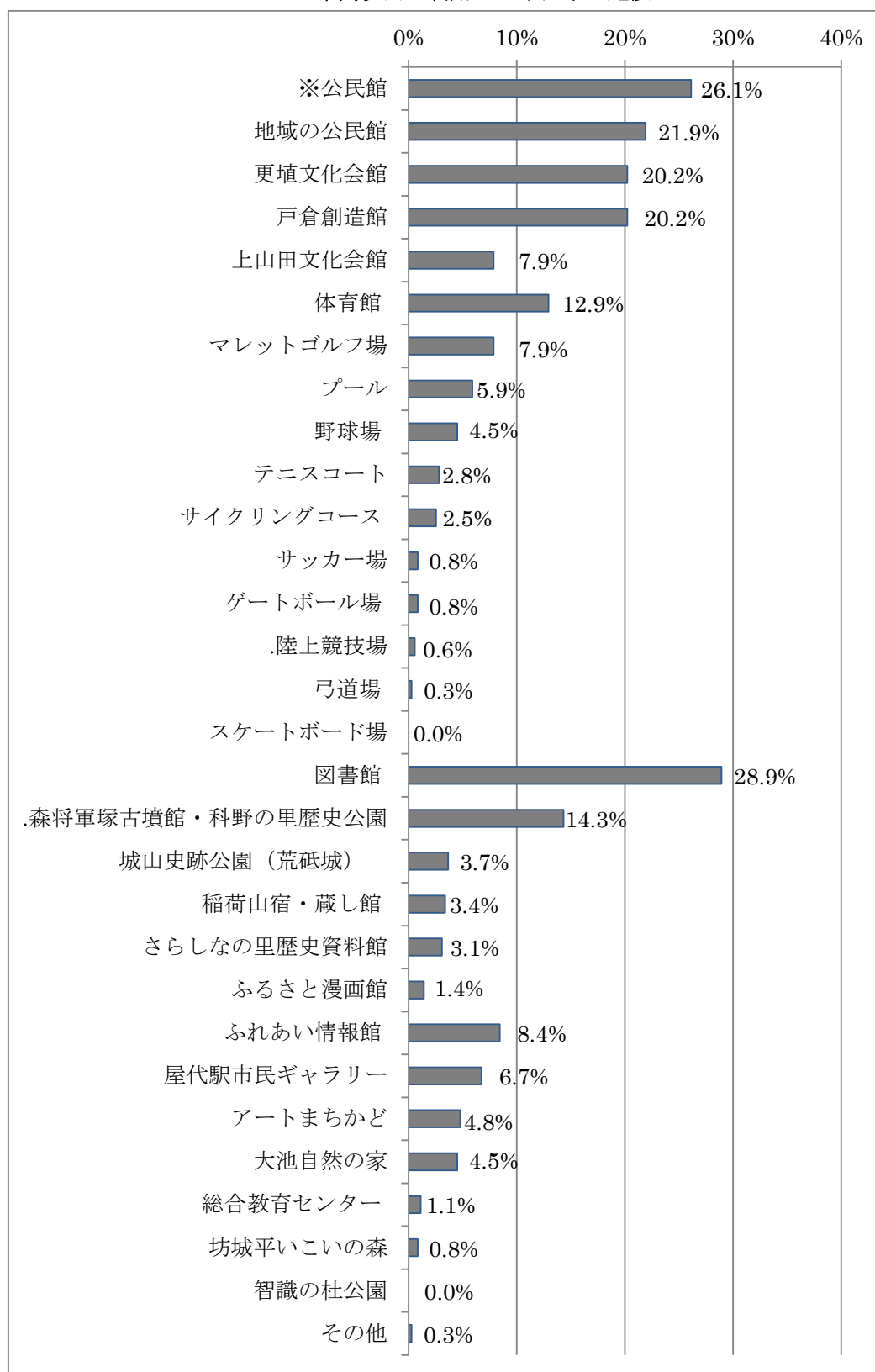
一方、施設を１年間で一度も利用しなかった人は 83 人で、回答者全体の 23.3%でした。その内訳は下表のとおりです。70 歳代では 85%以上の人が施設を利用していますが、その他の年代の人たちにもっと施設を利用してもらう必要があります。各施設がもっと有効利用できるような環境づくりがいつそう求められます。

千曲市生涯学習施設利用者と不利用者の数と割合（１年間以内の利用）

性別	利用者(人)	不利用者(人)
18・19 歳	5	2
20 歳代	15	7
30 歳代	25	7
40 歳代	51	15
50 歳代	50	21
60 歳代	56	18
70 歳代	70	12
年齢不明	1	1
合計	273	83



1年以内以内に利用した千曲市の施設



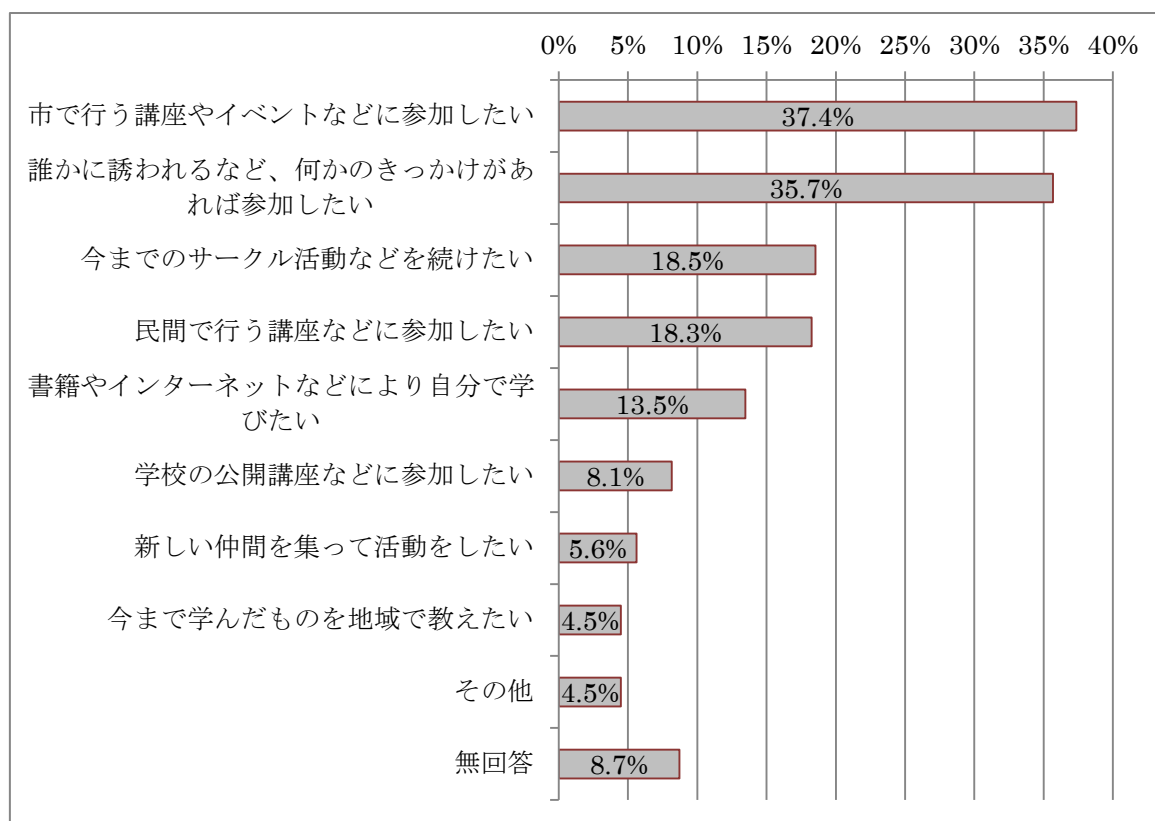
※公民館は（屋代・埴生・稲荷山・八幡・戸倉・上山田）

（６）今後の学習活動について

市民が今後行いたいと考える学習活動形態については、「市で行う講座やイベントなどに参加したい」と答えた人が 37.4%と最も多く、次いで「誰かに誘われるなど、何かのきっかけがあれば参加したい」が 35.7%となっています。その他（学習する必要があるなど）や、無回答を除けば、回答者の 86.8%が何らかの学習活動を望んでいることが分かりました。そのうち多くの市民が市の講座やイベントでの学習を希望し、きっかけがあれば参加したいと考えていることから、今後も充実した講座の企画や、参加しやすい環境づくりが不可欠です。

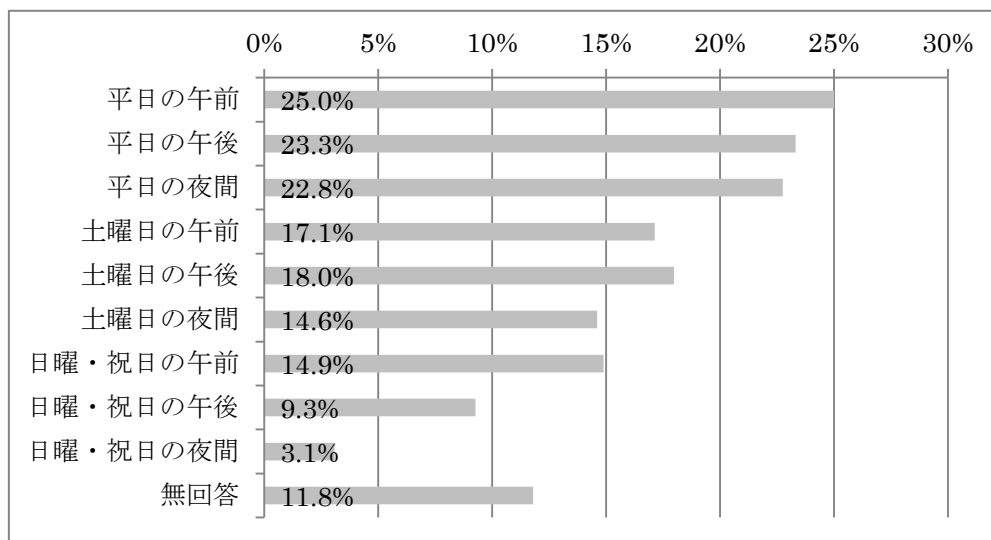
「今まで学んだものを地域で教えたい」と答えた人は 4.5%と少なく、学習の成果を地域に還元するという考えが市民にまだ浸透していないことから、今後は積極的に啓発していく必要があります。

今後行いたい学習活動



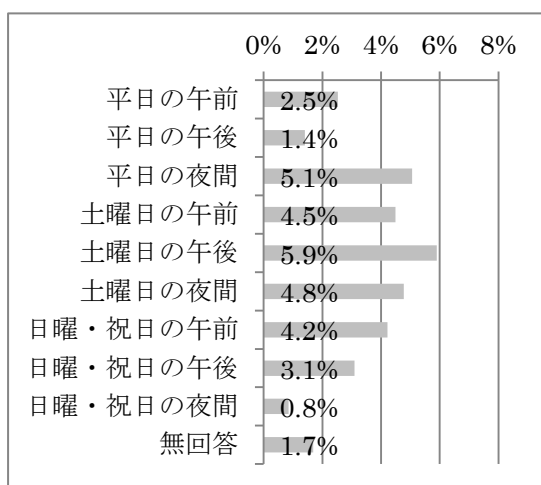
どんな時間に学びたいかでは平日の午前が 25.0%と最も多く、次いで平日の午後となっています。60～70 歳はほとんどが平日の午前・午後に集中しているのに対し、就労者が多い世代では、平日の夜間、土曜日の午前・午後・夜間との回答が多くありました。「興味のある講座が平日の昼間に集中している」という意見もあり、今後は平日の夜間や、土日も開催できる講座を検討する必要があります。

学びたい時間帯

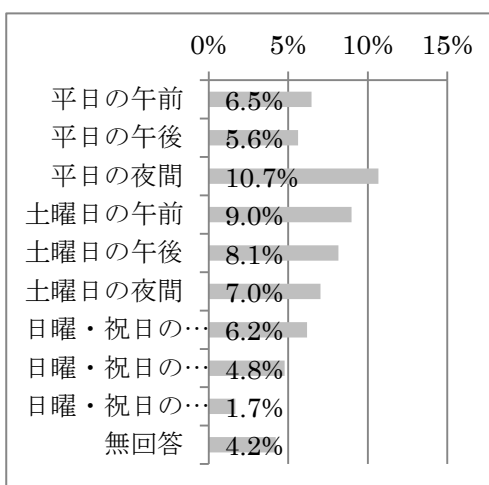


学びたい時間帯、年齢別（％は全回答者 356 人に対する割合）

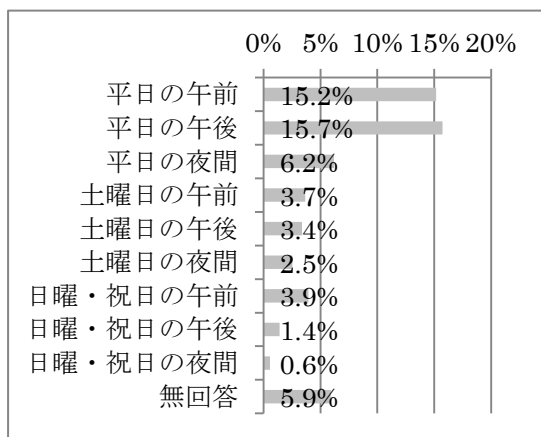
18～30 歳代



40～50 歳代



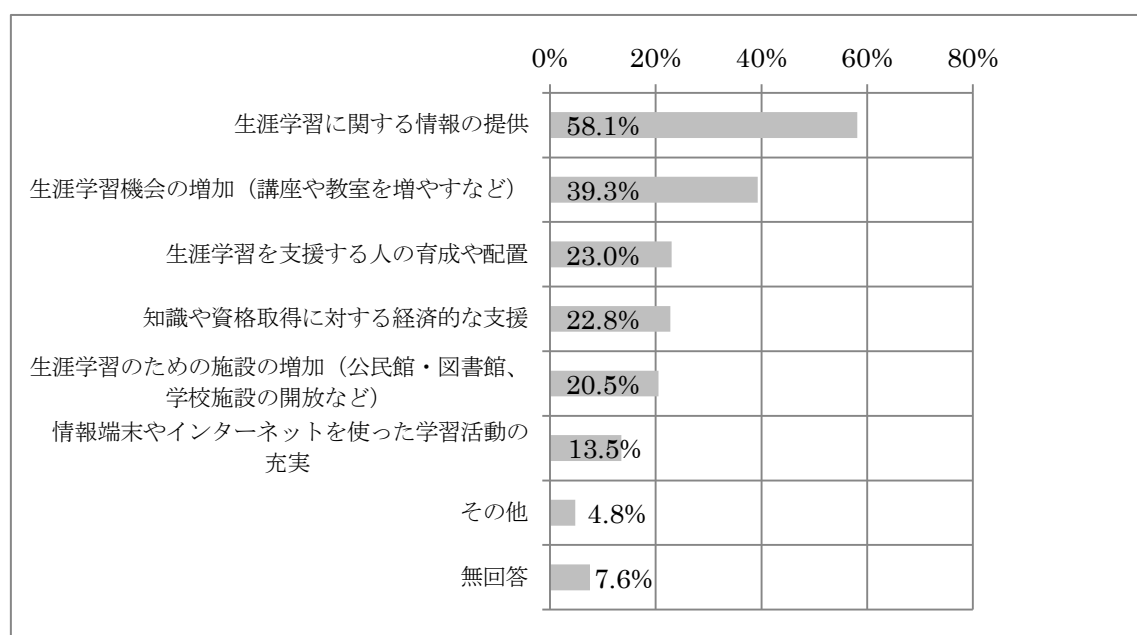
60～70 歳代



「生涯学習推進のために市が力を入れていくべきことは何か？」という問いに対しては、「生涯学習に関する情報の提供」が 58.1%と最も多く、どの世代でも最上位となっています。若年層からは「興味のある情報をもっとアピールして欲しい」、「情報発信が少ないと感じる」という意見もあり、情報の提供にもっと力を注いでいく必要があります。

「生涯学習機会の増加」は 40～70 歳代に多く、「知識や資格取得に対する経済的な支援」は 20～30 歳代に多くなっています。「生涯学習のための施設の増加」、「生涯学習を支援する人の育成や配置」は各世代平均してありましたが、「情報端末やインターネットを使った学習活動の充実」ではまだ環境が整っていないせいか、少数意見でした。

生涯学習推進のため市が力を入れていくべきこと



市が力を入れていくべきこと、年代別別回答者の多い順

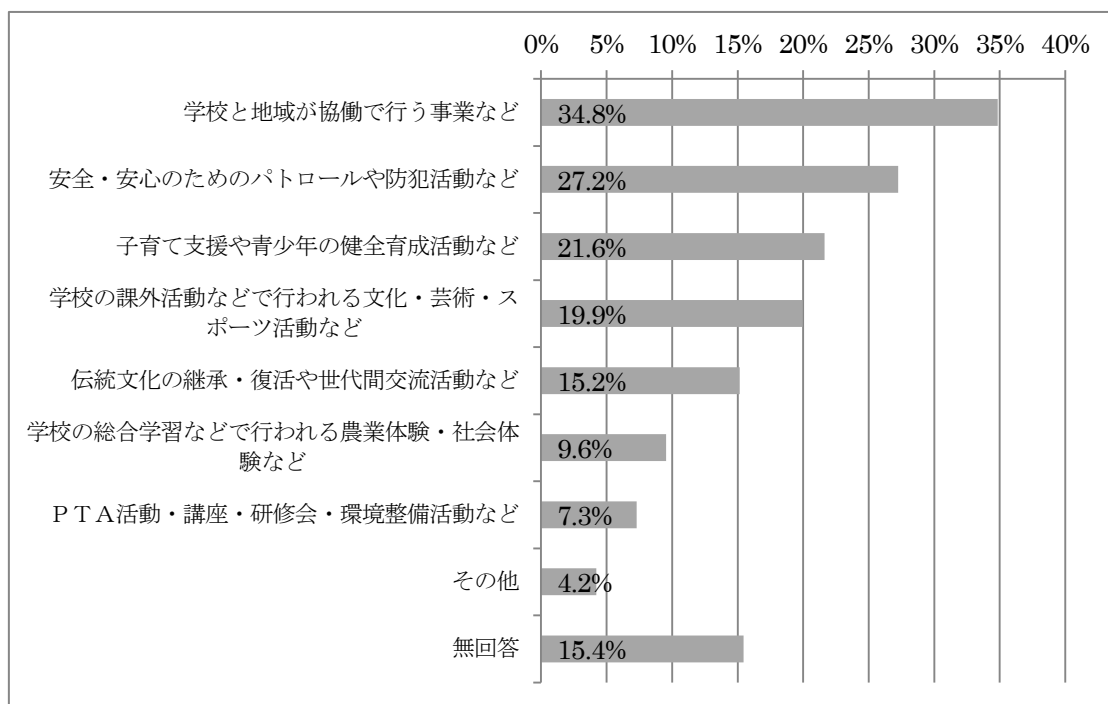
（各世代 1 位は生涯学習に関する情報の提供、2 位以下の順位）

年 齢	2 位	3 位
18・19 歳～	生涯学習を支援する人の育成や配置	知識や資格取得に対する経済的な支援
20 歳～	知識や資格取得に対する経済的な支援	生涯学習機会の増加
30 歳～	知識や資格取得に対する経済的な支援	生涯学習機会の増加
40 歳～	生涯学習機会の増加	知識や資格取得に対する経済的な支援
50 歳～	生涯学習機会の増加	知識や資格取得に対する経済的な支援
60 歳～	生涯学習機会の増加	生涯学習を支援する人の育成や配置
70 歳～	生涯学習機会の増加	生涯学習のための施設の増加

（７）協働から見えるもの

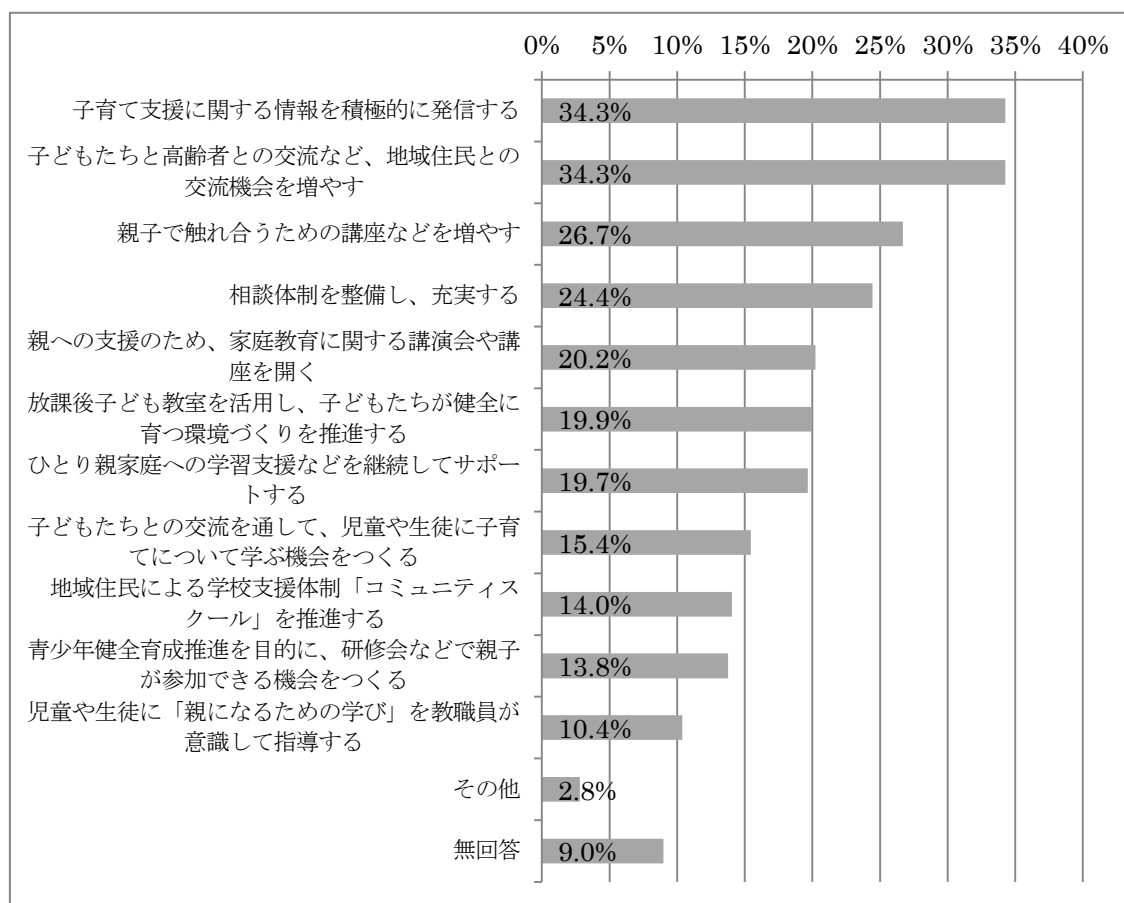
生涯学習に必要な家庭・学校・地域との協働で、市民がどのように思っているかを問いました。地域の教育力向上のため、協力したいと思うことでは、「学校と地域が協働で行う事業など」と回答した人が 34.8%で最も多く、次いで「安全・安心のためのパトロールや防犯活動など」、「子育て支援や青少年の健全育成活動など」と続いています。回答者の 86.4%がなんらかの形で地域の教育力向上に協力したいと考えていることから、多くの市民が生涯学習にかかわりたい希望があるという実態が分かりました。

地域の教育力向上のため協力したいと思うこと



家庭教育支援のため必要だと思うことについては、「子育て支援に関する情報を積極的に発信する」、「子どもたちと高齢者との交流など、地域住民との交流機会を増やす」が共に 34.3%となっています。「子育て支援に関する情報を積極的に発信する」は 18～30 歳代、「子どもたちと高齢者との交流など、地域住民との交流機会を増やす」は 60～70 歳男性で最も多くなっています。20 代男性、30 歳代女性では、「親子で触れ合うための講座などを増やす」との回答も多くありました。

家庭教育支援のため必要だと思うこと



年代・男女別 最も多かった回答

18・19 歳～	男性	子育て支援に関する情報を積極的に発信する
	女性	子育て支援に関する情報を積極的に発信する
20 歳～	男性	親子で触れ合うための講座などを増やす
	女性	子育て支援に関する情報を積極的に発信する
30 歳～	男性	子育て支援に関する情報を積極的に発信する
	女性	親子で触れ合うための講座などを増やす
40 歳～	男性	相談体制を整備し、充実する
	女性	放課後子ども教室を活用し、子どもたちが健全に育つ環境づくりを推進する
50 歳～	男性	子育て支援に関する情報を積極的に発信する
	女性	子どもたちと高齢者との交流など、地域住民との交流機会を増やす
60 歳～	男性	子どもたちと高齢者との交流など、地域住民との交流機会を増やす
	女性	子育て支援に関する情報を積極的に発信する
70 歳～	男性	子どもたちと高齢者との交流など、地域住民との交流機会を増やす
	女性	子どもたちと高齢者との交流など、地域住民との交流機会を増やす

3. 今後の課題

「前計画の成果」と「千曲市の現状」から導き出した千曲市の生涯学習の課題として、以下のようなことが挙げられます。

- ・生涯学習への理解と啓発
- ・生涯学習機会と情報の提供
- ・学習講座の見直しと今後の取り組み
- ・生涯学習活動への参加促進
- ・施設の利便性向上と利用促進
- ・学習還元の促進

(1) 生涯学習への理解と啓発

生涯学習の必要性が叫ばれ、「生涯学習振興法」が施行されて 30 年近く経過していますが、いまだに「生涯学習」という言葉を知らない人もいます。この傾向が若年層で高いことから、学校教育でも「生涯学習」という言葉に触れる機会がなかったことがうかがえます。大人や教育者が生涯学習を理解し、積極的に生涯学習活動を進め、自らが学ぶ姿を子どもたちに示しながら、「生涯学習」を伝えていくことが大切です。

「学習」という言葉は、学問、勉強を連想させ、「生涯学習」も技術や技能を学ぶための学習活動だと理解されがちです。しかし「生涯学習」はもっと広義の学習活動で、すべてのライフステージにかかわる学習活動です。生涯学習の意味や意義を市民に正しく理解してもらうためには、なおいっそう生涯学習を啓発していく必要があります。



(2) 生涯学習機会と情報の提供

市民が望む今後の生涯学習では「千曲市で行う講座やイベントに参加したい」という意見が最も多くみられました。こうした市民の声に応えるためには、今後もより充実した生涯学習機会を提供していく必要があります。

生涯学習推進のため市が力を入れていくべきことでは、「生涯学習に対する情報の提供」を望む意見が多数ありました。市の講座やイベントの参加者では、市の広報やチラシをとおして情報を知ったという回答が多く、市から紙媒体で提供した情報は、しっかりと市民に届いていることがうかがえます。しかし、インターネットなどの情報網や、民間情報誌・

タウン誌などはあまり利用されていません。利用の少ない情報はどこに原因があったのかなどを検証し、どんな情報発信をしたらいいか、内容、時期、発信方法、発信形態、性別や年代別などを検討し、市民が気づきやすく利用しやすい情報発信に努めます。

（３）学習講座の見直しと今後の取り組み

前計画の成果から見ると、千曲市で行う講座やイベントでは、一定の成果がありました。特に高齢世代の市民が多く参加している実態があり、健康・スポーツなどの講座では、ある程度充実している傾向がみられました。しかし、市を代表する地域資源である温泉施設の利用促進や「温泉講座」など温泉を活用した健康づくりは不十分でした。その他の講座では、公民館の講座数の減少や、参加者が前計画の目標値より少ないという状況がありました。

講座やイベントを見直し、今後は、参加したくなるような講座の立ち上げ、ライフステージに合わせた講座の充実を図り、告知方法に工夫をこらしながら進めていきます。そして、アンケートの意見をもとに、就労者が多い世代に向けた講座、時間がないと答えた人向けの短期的な講座、平日に集中している講座を、土・日曜や平日の夜間にできないかなども検討します。

そのほか、メディア上の有害情報対策、新たな情報化への対応、著作権など権利に関する情報、ボランティア活動に向けた対策など、時代変化に応じてその都度必要な情報を講座に反映していくことも検討します。



（４）生涯学習活動への参加促進

「生涯学習に関する市民意識調査」の結果からも分かるように、大多数の市民が生涯学習の必要性を認識し、今後の学習活動への参加を希望しています。地域の教育力向上でも、何かの活動に協力したいと考える市民が多いことから、今後さらに多くの市民の生涯学習への参加促進に努めます。

市民が望む生涯学習活動では「誰かに誘われるなどなにかのきっかけがあれば参加したい」と考えている方も多数みえることから、お互いに誘い合える環境を提供していく必要があります。

前計画の成果より、ボランティア活動等への参加促進、小学生児童のスポーツ少年団の登録人数の減少、就業意識の高揚や雇用に関する相談への支援などが課題となっています。

生涯学習に関する市民からの相談に、気軽に応じることができる窓口機能を充実させ、子育て中でも参加できる支援体制づくりを進めるとともに、誰もが参加したくなる魅力的な生涯学習環境を提供し、多くの市民が生涯学習活動にかかわることができるよう努めます。

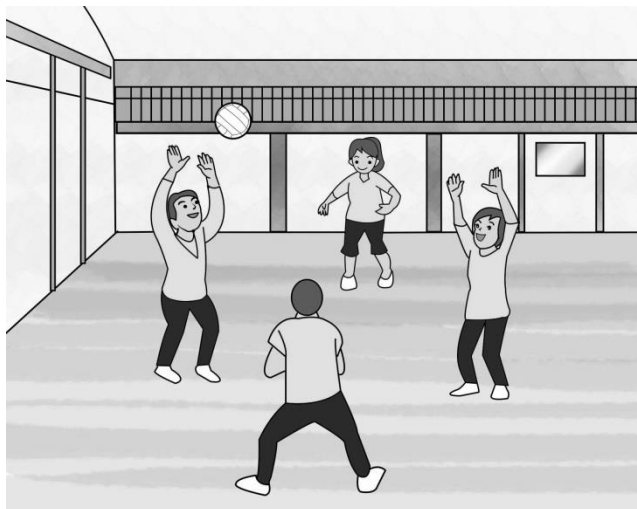
す。

（５）施設の利便性向上と利用促進

利用状況で見ると、図書館や各文化施設はある程度利用者がいるのに対し、スポーツ施設は比較的用户数が少ないように見えますが、現状では稼働率が高く予約が取りづらいスポーツ施設も多くなっています。文化施設、スポーツ施設それぞれに市民が生涯学習活動に無理なく取り組めるような施設環境を提供するため、施設それぞれの利用状況の分析と市民意見の把握に努めます。

文化施設では各公民館などが自主事業を行っていますが、その検討と継続事業の見直しが必要です。利便性はどうかなども含め、利用促進につながるよう努めます。

その他の施設では、利用されていない施設を中心に検討します。既存の市の施設が市民に利用しやすく、交流の場として機能するように有効な活用促進を図ります。



（６）学習還元の促進

市のアンケートでは「今まで学んだものを地域で教えたい」と答えた人は回答者の4.5%のみと、積極的に教えたいと考える人が少ないのが現状です。ただ、地域の教育力向上に協力したい人は多く、潜在的に教えたいという意識のある人が多いとも感じられます。

前計画の成果からの課題としては、伝統芸能の伝承者や芸術創造活動に携わる人材の育成、環境学習や科学に親しむ教室の講師不足、放課後子ども教室・放課後児童クラブのスタッフ不足、市に協力してくれる外国籍市民の育成などが取り上げられています。人材バンクの登録も利用も発足当時より少なくなっています。

キャリア教育、消費者教育、国際教育、人材教育など、多様な学習ニーズに応えるためには、高校や大学、企業、関連団体、NPO などに加え、地域社会でそれぞれに能力のある人たちが連携し、支援・協力していくことが必要です。

今後は、人材育成を目的にした学習も増やし、学習した市民の中から適材適所の人材を発掘し、人材バンクへの登録などを積極的に進めるなど、その成果を地域社会に還元できるよう努めます。

第 3 章 千曲市が目指す生涯学習

1. 基本理念

「学ぶ力で未来をつくる 人が輝く学びのまち」

生涯学習の目的は人々の幸せです。誰もが学びの力で「心豊かな幸せな人生を送ってほしい」との願いから、本市では生涯学習社会の実現をめざし、さまざまな施策に取り組んでまいります。

生涯において学ぶことはとても大切なことです。自ら学び、共に学び合い、少しずつでも続けていくことで自己を高めることができます。学び合うことにより、教養や知識が増すばかりでなく、多くの人々との交流が増えます。その結果、他人を理解し、尊重し、思いやる心が強くなり、地域へのボランティア活動や協働、自分の知識を次世代に伝えていこうという意識が生まれるものです。そして学んだ成果からは、いろいろなアイデアが生まれます。それは千曲市の将来にとってはとても貴重なものです。

「千曲市の現状」からみると、市民に学習意欲はあるものの、実際に生涯学習活動に関わり、成果を地域に還元したいと思っている人は5%に満たない状況です。今後、市が直面するさまざまな課題の解決を目指して、市民の学ぶ力をさらに引き出し、学習によって多くの人と交流することでアイデアを生み出し、それを地域に還元していくことがますます求められます。

学びとその還元により将来のより良い千曲市を形成していくことが重要であることから、「第二次千曲市生涯学習基本構想・基本計画」では、市民の「学ぶ力」を引き出すことを第一の目的とします。そして生涯学習を通じた交流を進めることで、さまざまな成果を生み出していくことを第二の目的とし、それにより生まれた成果を地域社会に還元していくことを第三の目的とします。

市民が共に学び合うことでいきいきと輝き、「千曲市に暮らして良かった」と思えるような生涯学習環境の構築を目指し、基本理念を「学ぶ力で未来をつくる 人が輝く学びのまち」と定めます。

2. 生涯学習推進の概要

国では、平成 25 年に策定された「第 2 期教育振興基本計画」の中で「自立・協働・創造」の 3 つの方向性を掲げ、平成 30 年からの「第 3 期基本計画」において実現していくとしています。

それにならい、市の生涯学習基本計画においては、千曲市独自の 3 つキーワードを基本

目標として各施策を展開していきます。

(1) 学ぶ意識を高める

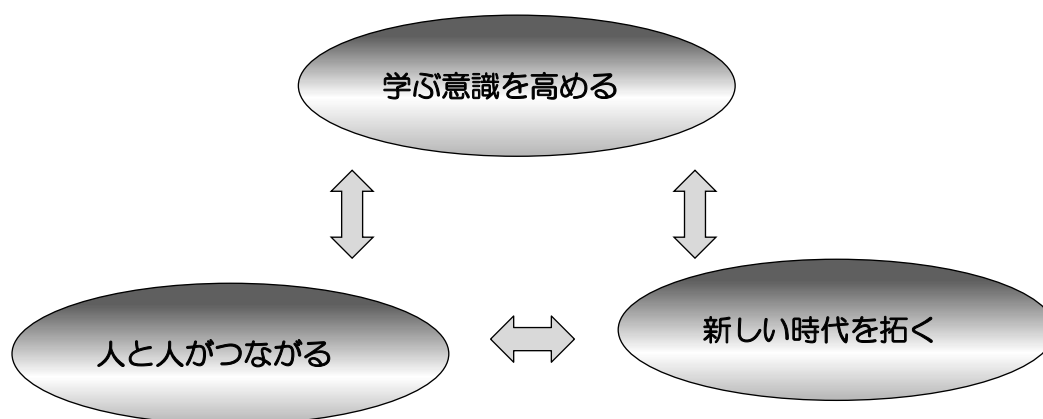
みんなが自発的に学び、続けることで学ぶ能力がついていく

(2) 人と人がつながる

学ぶことで多くの仲間が増え、いろいろなアイデアが生まれる

(3) 新しい時代を拓く

学んだ成果の中から、千曲市に新しい知恵が生まれる



第二次千曲市生涯学習 基本計画

第二次千曲市生涯学習基本構想・基本計画の位置づけ

第二次千曲市総合計画	
将来像	科野の国 さらしな はにしな 史都が賑わう 信州の交流拠点 千曲
基本目標	1 千曲の魅力で創生する賑わいと活力のあるまち
	2 安心して子育てができ、のびやかに育ち学べるまち
	2-3 達成方針 「生涯学習スポーツ文化芸術」 学びや芸術・スポーツを通じ、人と地域の魅力を高める
	2-3-1 施策の項目・内容 生きがいや喜びを味わえる生涯学習環境をつくる  第二次千曲市生涯学習基本構想・基本計画
	3 支えあい、だれもが健康で活躍するまち
	4 災害に強く、安全で心穏やかに暮らせる町
	5 輝かしい歴史文化や美しい自然を未来に継ぐまち
	6 協働で創る、市民主体の住みたい住み続けたいまち

第二次千曲市生涯学習基本構想・基本計画体系図

市の 将来像	総合計画 2-3-1	基本 理念	基本目標	基本施策	具体的施策
科 野 の 国 さ ら し な は に し な 史 都 が に ぎ わ う 信 州 の 交 流 拠 点 千 曲 （ 第 二 次 千 曲 市 総 合 計 画 ）	生 き が い や 喜 び を 味 わ え る 生 涯 学 習 環 境 を つ く る （ 第 二 次 千 曲 市 総 合 計 画 ）	学 ぶ 力 で 未 来 を つ く る 人 が 輝 く 学 び の ま ち	学 ぶ 意 識 を 高 め る （ み ん な が 自 発 的 に 学 び 、 続 け る こ と で 学 ぶ 能 力 が つ い て い く ）	1. 健康づくりとスポーツの振興	①生活習慣病等・感染症予防の普及 ②健康づくりの推進 ③スポーツ・レクリエーション活動の振興
				2. 文化芸術の振興	①文化芸術活動の支援・充実 ②文化芸術の機会の充実
				3. 情報化・ネット社会に対応した学習の推進	①インターネットにつながる情報機器の利用に関する知識の普及 ②ネットを介したコミュニケーションにおけるモラル学習の推進
				4. ライフステージに合わせた学習の推進	
				(1) 乳幼児期の学び	①安心して子育てができる環境づくり ②子育て家庭の支援
				(2) 青少年期の学び	①基礎学力の向上 ②豊かな心・健やかな体の育成 ③学校・家庭・地域が一体となった学校づくりの推進
				(3) 成人期の学び	①学習情報の提供と学習機会の充実 ②学習活動への参加促進
				(4) 熟年期の学び	①学習情報の提供と学習機会の充実 ②学習活動への支援
			人 と 人 が つ な が る （ 学 ぶ こ と で 多 く の 仲 間 が 増 え 、 い ろ い ろ な アイ ディ ア が 生 ま れ る ）	1. 国際化・多文化共生の推進	①国際交流の推進 ②外国人への支援と情報提供の充実
				2. ボランティアの育成	①ボランティア育成の推進
				3. 男女共同参画の推進	①男女共同参画意識の高揚 ②男女共同参画社会の環境整備
				4. 人権学習の推進	①人権・平和についての意識の向上
				5. 環境・景観学習の推進	①環境活動の推進 ②環境教育の充実 ③景観形成の促進
				6. 防災・安全学習の推進	①防災体制の整備 ②交通安全意識の高揚と推進体制の充実 ③犯罪がおきない地域づくり
				7. 文化財・伝統行事の保護と伝承	①文化財の保護と活用 ②文化財保護意識の啓発 ③伝承活動の推進
				8. 学校・家庭・地域との協働	①学校・家庭・地域等で連携して取り組む教育 ②地域ではぐくむ健全な心と体 ③文化・スポーツに親しむ環境の整備
			新 し い 時 代 を 拓 く （ 学 ん だ 成 果 の 中 か ら 、 千 曲 市 に 新 し い 知 恵 が 生 ま れ る ）	1. 成果の発表と評価	①学習成果の発表と場の充実
				2. 地域への還元	①学習成果の活用
				3. 生涯学習を推進するために	
				(1) 市民の役割	①学習活動への啓発 ②学習参加の推進
				(2) 地域社会の役割	①地域住民の参加促進
				(3) 行政の役割	①生涯学習体制の推進 ②生涯学習施設の整備・充実 ③地域づくり活動の支援
				(4) 他機関との協働	①他機関との連携・協力

第1章 学ぶ意識を高める

—みんなが自発的に学び、続けることで学ぶ能力がついていく—

市民が潜在的に持つ学習意欲を引き出し、自らが積極的に学ぶ意識を高めることで、生涯にわたる学びにつなげることができます。学び続けることとは、毎日学ぶという意味ではありません。途中で学ぶことができなくなっても、いつからでもまた学び始める、何度も何度も学んでいく姿勢を意味します。たとえ少しでも学んだものは決して無駄ではなく、役に立っていくものです。その積み重ねが大きな力になります。

今回実施した生涯学習に関する意識調査により、市民の大半が学習意欲を持っていることから、市ではその意欲に応え、いっそう生涯学習を推進していく必要があります。

ここでは健康・スポーツや音楽・芸術など、これまでも多くの市民が活動してきた学習を、さらに深めるための施策に取り組んでいきます。多くの人が、自分の意志で学び、学び続けることにより優れた学習能力が引き出され、生涯学習の楽しさを味わえるよう、学習機会の提供、支援や相談の体制づくりに努めます。

1. 健康づくりとスポーツの振興

人は誰でも健康でいきいきした生活を送ることを願っています。そのためには、心と体の健康づくりが欠かせません。スポーツには、健康管理のほかにも趣味や遊びといった要素も多く、楽しみや喜びが味わえます。競技やゲームなどを通じて多くの仲間と交流することができ、地域の活性化にもつながります。

充実した学習機会を市民に提供し、「健康づくりとスポーツの振興」に積極的に取り組みます。



具体的な取り組み

①生活習慣病等・感染症予防知識の普及

- ・生活習慣病等や感染症に対する正しい知識の普及を図ります。

②健康づくりの推進

- ・健康づくり計画（健康アップ千曲21）に基づき、栄養と食生活に視点を置いた食育や身体活動、こころの健康、歯の健康、たばこ対策、生活習慣病予防などライフステージに応じた健康づくりを推進します。
- ・生涯を通じた市民の健康づくりに向けた出前講座を進めます。
- ・市営入浴施設（白鳥園など）において、軽運動など健康増進に向けた事業の充実や、

世代間交流の場としての利用を図ります。

③スポーツ・レクリエーション活動の振興

- ・各種スポーツクラブ、スポーツ団体の育成・支援、プロスポーツチームの支援などにより、スポーツ振興を図ります。
- ・市民の交流を図るため、千曲川ハーフマラソンなど特色あるスポーツイベントを開催します。
- ・スポーツ施設の効果的運営を進め、誰もがスポーツを楽しめる環境づくりを進めます。

指 標 名	実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
スポーツ活動を週1回以上行っている成人の割合	50.4%(2017)	65.0%(2021)
市民一人当たりのスポーツ施設利用回数	6.6 回(2017)	6.8 回(2021)

2. 文化芸術の振興

文化芸術は人びとに楽しみや感動を与え、人生を豊かにします。そのため、優良な公演を誘致し、市民に鑑賞機会を提供するほか、魅力的な講座や講演を開催していきます。創造・発表と鑑賞の場・機会などの充実、指導者や幅広い人材の育成を図りながら文化芸術の振興を進めます。



具体的な取り組み

①文化芸術活動の支援・充実

- ・市民が身近に文化芸術を享受できるよう、さまざまな文化芸術の公演・展示などに対する支援や、文化芸術活動への参加を促進します。
- ・文化芸術団体を支援し、伝統芸能の伝承者や文化芸術活動の指導者など、文化芸術活動に携わる幅広い人材の育成を図ります。

②文化芸術の鑑賞機会の充実

- ・公演等の充実を図り、市民に文化芸術の鑑賞機会を提供します。

指 標 名	実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
文化施設の利用者数	180,406 人(2017)	200,000 人(2021)
文化芸術施設や文化活動について <u>普通以上</u> (※)と感じている市民の割合	46.4%(2017)	60.0%(2023)

※「普通以上」とは、市民満足度調査の中で「満足している」と「まあ満足している」の割合を合わせた数字をさします。

3. 情報化・ネット社会に対応した学習の推進

情報通信技術（ICT）の発達により、情報化社会はますます進化しています。スマートフォンの普及によりいつでも、どこでも、どんな情報にでもアクセスすることが可能となり、学ぶ力を発揮しやすくなったことと平行して、料金決済などの重要情報を含む個人情報危険に晒される犯罪事案や「ネットいじめ」も増加しています。

さらに、人工知能（AI）の普及により、社会生活や経済面にも大きな影響を及ぼすと考えられます。便利な情報機器を使いこなす知識を増やすと同時に、その弊害にも対応する必要があります。時代の進展に合わせて、情報化・ネット社会に対応した学習を推進していきます。



具体的な取り組み

①インターネットにつながる情報機器の利用に関する知識の普及

- ・スマートフォンを始めとする携帯型情報端末をターゲットとした犯罪等に巻き込まれないための学習会を開催します。
- ・市ホームページや SNS を活用し、多チャンネルによる情報提供の充実を図ります。
- ・ネットの掲載情報に個人の携帯型情報端末からのアクセスが増加するよう、関連するメディアにアクセス情報（QR コードなど）を設置します。
- ・携帯型情報端末が若年世代へも普及していることから、学校における利用方法等に関する指導を実施します。また、各世代をとおして、ネット依存による生活の乱れや、過度の使用による身体の不調等を防止するための啓発を行います。

②ネットを介したコミュニケーションにおけるモラル学習の推進

- ・目の前にいない相手とのコミュニケーションの中で、相手を傷つけたりしないため、情報モラルに関する学習を進めます。
- ・若年世代の携帯型情報端末による「ネットいじめ」の発生を防ぐためのモラル学習やいじめを始めとした人権侵害を受けた場合の対応に関する学習を進めます。

指 標 名	実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
情報モラル等に関する研修会等の開催件数	0 件(2017)	9 件(2023)

4. ライフステージに合わせた学習の推進

(1) 乳幼児期の学び

乳幼児期は、集団生活のマナーやしつけなどをしっかり学ぶ、人間形成の基礎となる大

切な時期です。「千曲っ子」を元気に育てられる環境をつくるために、親が家庭における子育ての正しい知識を身につけることが必要です。市では「子ども育成条例」「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、乳幼児期の生涯学習を推進します。



具体的な取り組み

①安心して子育てができる環境づくり

- ・「子ども育成条例」に基づき、地域をはじめ、社会全体で子育てを支え合う意識の醸成に努めます。
- ・「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、子育てに関する相談・助言をはじめとする支援事業を地域とともに推進します。

②子育て家庭の支援

- ・子どもへの虐待防止を図るため、関連機関と連携し、相談窓口の充実に努めます。
- ・子育てに関する情報を一元化し、子育て世代への情報提供に努めます。
- ・子どもの発達段階に応じた「食」についての学習や情報提供を行い、子どもの心と体の健やかな成長・発達を支援します。

指 標 名	実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
子育て支援センター年間利用者数	37,328 人(2017)	43,000 人(2021)
ファミリー・サポート・センターの年間利用者数	898 人(2017)	1,200 人(2021)
子育て応援アプリ登録者数	123 人(2017)	2,000 人(2021)

(2) 青少年期の学び

青少年期は、人間形成のために重要な時期です。学校教育では学習能力を高めることのほか、健全な心と体の育成が求められます。

「のびのび育つみんなで育つ千曲次世代育成支援行動計画」に基づき、学校支援体制の整備、キャリア教育の推進、教育相談体制の充実など、幅広い施策を実施し、青少年期の生涯学習を推進します。



具体的な取り組み

①基礎学力の向上

- ・「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた「生きる力」を育成するため、指導体制の充実や教員の資質向上、学校支援体制の整備を図ります。
- ・外国語教育、ICT 教育、キャリア教育などの推進を図ります。

②豊かな心・健やかな体の育成

- ・豊かな感性と想像力を高めるため、「千曲市子ども読書活動推進計画」に基づき、読書活動の充実を図るほか、「本物」に触れる機会を提供し、学習意欲を高めます。
- ・児童生徒の健康の保持増進、体力や運動能力を向上させる取り組みを進めます。
- ・道徳教育、人権教育の充実を図ります。
- ・「ふるさと」に誇りを抱く教育の推進を図ります。

③学校・家庭・地域が一体となった学校づくりの推進

- ・学校と地域が一体となって子どもを育てる「千曲型コミュニティスクール」の推進と充実に努めます。
- ・子どもたちを犯罪から守るため、家庭、地域と連携した取り組みを進めます。
- ・安全で安心な学校給食の提供に努め、学校、家庭と連携し食育を推進し、「早寝早起き朝ごはん」といった望ましい生活習慣の啓発を進めます。

指 標 名		実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
他地域の子どもとの交流活動の開催数		5 回(2017)	6 回(2023)
朝食を毎日食べている児童・生徒の割合	児 童	89.5%(2018)	90.0%(2023)
	生 徒	83.2%(2018)	85.0%(2023)

(3) 成人期の学び

成人期は、生涯にわたるキャリアやライフスタイルを確立する時期です。家庭や地域社会、職場などあらゆる場で活躍でき、自立した自由な生活を送ることができます。

成人期の学習支援を継続しながら、勤労者も気軽に学べる生涯学習の場づくり、機会づくりを進めます。



具体的な取り組み

①学習情報の提供と学習機会の充実

- ・市報、ホームページ、新聞、地元 CATV、SNS 等さまざまなメディアを活用した情報提供に努めます。
- ・複雑化・多様化する社会に対応できるよう、公民館や図書館などで開催する各種学級・講座などの学習内容や学習機会の充実を図ります。
- ・働いている人が利用しやすい時間帯の講座開設に努めます。

②学習活動への参加促進

- ・市で行う各種イベントや学校行事などを通じ、地域活動への参加促進を図ります。

(4) 熟年期の学び

熟年期は、健康で生きがいを持って生活し、社会貢献などが求められる時期です。生涯学習による仲間づくりは、本人自身の生活に潤いを与えるばかりでなく、地域社会の活性化にも役立ちます。高齢者の生き生きとした笑顔あふれる学びや健康づくりをサポートするとともに、高齢者の仲間づくりを進めます。



具体的な取り組み

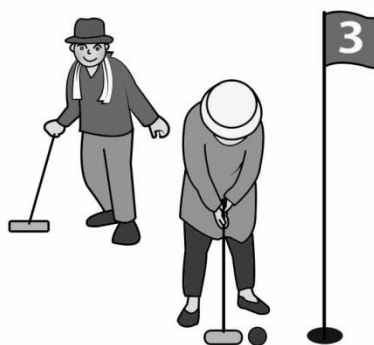
①学習情報の提供と学習機会の充実

- ・市内外で開催される各種講座や学級等の情報を提供し、熟年世代の学習参加を促します。
- ・市報、ホームページ、新聞、CATV、チラシ・ポスター等さまざまなメディアを活用した情報提供に努めます。
- ・リタイア世代の生きがいづくりとして、公民館活動を中心に、生涯学習の機会を提供します。
- ・児童クラブ、コミュニティスクールなどでの子どもとの交流、ふれあいをおして、リタイア世代が現役時代に培った技術や文化を次世代に伝えるための取り組みを行います。

②学習活動への支援

- ・高齢者の健康増進や教養の向上、高齢者同士や多世代間交流など、生きがい活動を通じてその能力を生かし、意欲や目標をもって社会参加ができるよう支援します。
- ・老人クラブなど高齢者の主体的な活動を支援します。
- ・高齢者を中心に「健康体操」などの普及を進めます。

指 標 名	実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
公民館の高齢者を対象にした講座数	70 講座(2017)	80 講座(2023)



第2章 人と人がつながる

—学ぶことで多くの仲間が増え、いろいろなアイデアが生まれる—

生涯学習は、好きな時に、好きな場所で、ひとりだけでもできる利点があります。しかし、自分ひとりでなく、仲間といっしょに学んでいくことで、より大きな成果が生まれます。仲間が増えることで、楽しみが増し、新たな交流が生まれます。交流することで、いろいろな意見が交わされ、新たなアイデアが生まれます。人とつながることは社会とつながることであり、社会に出て学ぶことで地域コミュニティにおける活力が生み出されます。

仲間をつくり交流していくことも、生涯学習の大きな目的のひとつです。ここでは、共通のテーマを持つ施策を中心に生涯学習の推進を図ります。

1. 国際化・多文化共生の推進

情報技術の発展や交通手段の発達により、人、モノ、情報が国際的に移動するグローバル化が進んでいます。文化の多様性を尊重し、受け入れる国際性豊かな人材を育て、市民と外国人との交流や外国籍市民との相互理解を深めながら、国際化・多文化共生を推進します。



具体的な取り組み

①国際交流の推進

- ・ 広い視野と国際感覚豊かな人材育成のため、市民の自主的な国際交流事業を支援します。
- ・ 外国籍市民との交流を深め、地域で共に支える交流の機会・場所の充実を図ります。
- ・ 国際交流団体等と連携し、国際理解・国際交流事業を推進します。

②外国人への支援と情報提供の充実

- ・ 外国籍市民が安心して暮らせる生活環境づくりの支援と相談、情報提供の充実を図ります。
- ・ 千曲市の伝統や文化を学び、外国人に紹介する機会をつくれます。

指 標 名	実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
多文化共生フェスティバル千曲万博の参加者数	450 人(2017)	750 人(2021)

2. ボランティアの育成

ボランティア活動には正しい知識や技術の習得が必要です。市では、各種団体と協力しながら、安全なまちづくりを目指したボランティア養成や環境に関する学習、清掃作業など、地域の実情に応じた多様なボランティア活動ができる市民の育成を図ります。



具体的な取り組み

①ボランティア育成の推進

- ・ボランティアの心構えや実践的な活動内容を学ぶ、ボランティア養成講座等を開設し、ボランティアの育成を図ります。
- ・広報やインターネットなどでボランティアへの意識啓発を進め、ボランティア情報を提供します。

指 標 名	実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
福祉ボランティアのグループ数	197 グループ(2017)	150 グループ(2021)
福祉ボランティアの人数	2,044 人(2017)	1,500 人(2021)

3. 男女共同参画の推進

男女が平等に社会生活を送っていくためには、男女共同参画の推進が必要です。家庭や職場、地域における男女共同参画の意識づくりを進めるとともに、男女が仕事と家庭・地域生活を両立しやすい環境づくりなどを通じて、活力のある男女共同参画社会の実現に努めます。

具体的な取り組み

①男女共同参画意識の高揚

- ・幼児期から命の大切さや男女共同参画意識を育てる保育や学習を推進するとともに、家庭・職場・地域、また国際社会における男女共同参画に対する正しい理解、意識を高めるセミナーや研修会、交流会等を開催します。



②男女共同参画社会の環境整備

- ・男女共同参画の視点に立って、家庭・地域におけるしきたりや固定的役割分担意識の見直しや改革に向け、広報など啓発活動の充実を図ります。
- ・行政、企業や地域活動等での方針決定過程への女性参画の促進と人材育成を図ります。
- ・農業、商工観光業など自営業における環境整備を進め、女性の社会的地位向上を図ります。

指 標 名	実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
市の審議会等における女性の参画率	27.2%(2017)	40.0%(2021)

4. 人権学習の推進

差別のない社会を築くためには一人ひとりが人権意識を持ち、理解を深めることが大切です。人権問題を解決していくためには、幼いころからの家庭教育や学校教育に加え、行政が責任を持ち人権学習に取り組んでいく必要があります。市では今後も人権意識の向上を図ります。



具体的な取り組み

①人権・平和についての意識の向上

- ・「人権とくらしに関する総合計画」に基づき、家庭、学校、企業・事務所、地域社会などあらゆる場や機会を通して、人権について教育・啓発を進めます。
- ・人権に関する情報提供の充実と相談体制の整備を図ります。
- ・学校と地域・家庭が連携し、いじめや差別をなくし、子どもの人権が守られる教育を推進します。

指 標 名	実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
地区人権教育研修会参加数	2,772 人(2017)	3,200 人(2021)
「平和」をテーマとした事業の開催	480 人(2017)	200 人(2021)

5. 環境・景観学習の推進

地球温暖化防止、循環型社会、自然景観の美化、家庭や地域での環境活動など、さまざまな環境問題は社会変化とともに取り組んでいく必要があります。そのため、「第二次千曲市環境基本計画」、「千曲市景観計画」、「千曲市緑の基本計画」に基づき、環境、景観学習の推進に努めます。



具体的な取り組み

①環境活動の推進

- ・ 環境に関する情報を提供し、循環型社会の実現に向けた取り組みや、再生可能エネルギーの利用、省エネルギーなどへの理解を深めます。
- ・ 家庭や地域における省エネ生活等を実践するさまざまな環境活動を支援します。

②環境教育の充実

- ・ 小中学校における環境教育の充実を図り、環境意識を高めます。
- ・ 学校、保育園、幼稚園への出前講座、親子環境学習などを支援します。
- ・ 講演会や学習会をととして、家庭でできる地球温暖化対策の普及を図ります。

③景観形成の促進

- ・ 「千曲市景観計画」、「千曲市緑の基本計画」に基づき景観の保全、育成、創出を推進します。
- ・ 歴史的町並みの環境整備を進めます。

指 標 名	実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
買い物時のマイバッグの持参率(市内平均)	63.5%(2017)	75.0%(2025)
親子の環境学習や科学に親しむ教室の開催	年 46 回(2017)	年 50 回(2023)

6. 防災・安全学習の推進

日ごろから防災、交通安全、消費生活安全の意識を持ち、正しい知識を学ぶ必要があります。市では、情報提供や相談体制の充実を図り、市民の防災・安全意識の高揚に向けた学習を推進します。

具体的な取り組み

①防災体制の整備

- ・ 総合防災訓練や地区防災訓練などを開催し、市民の危機管理意識の高揚を図ります。
- ・ 区・自治会単位で、地域を守る自主防災組織の組織強化とともに、「地区防災計画」策定に向けた支援を行います。

②交通安全意識の高揚と推進体制の充実

- ・ 交通安全意識の向上を図るため、広報・啓発活動を推進します。
- ・ 学校、幼稚園、保育園などにおける交通安全教室を推進します。

③犯罪がおきない地域づくり

- ・ 犯罪手口などの情報提供・啓発活動などにより、防犯意識の高揚を図ります。



- ・消費生活センターにおける相談業務の充実を図ります。
- ・消費者に対し、正しい知識の普及と情報提供を図ります。

7. 文化財・伝統行事の保護と伝承

先人が残した文化財や伝統行事は、市がたどってきた歴史や文化を知る上でとても貴重です。今後も「千曲市文化芸術振興基本計画」に基づき、伝統文化や文化財の保護・継承活動を推進します。



具体的な取り組み

①文化財の保護と活用

- ・名勝「姨捨（田毎の月）」をはじめとする、市内文化財の保存・継承を図ります。
- ・市内の歴史的建造物の保護を図るとともに、歴史的な町並みの整備を進めます。
- ・埋蔵文化財や歴史資料を収蔵し、広く活用ができる文化財保護センターの設置を検討します。
- ・市内の文化財や歴史遺産の調査を積極的に進め、指定文化財として登録・保護を図ります。

②文化財保護意識の啓発

- ・博物館などの文化財施設の充実や文化財の活用を図り、市民向けの講座の開設等により、市民の文化財保護意識の高揚を図ります。
- ・市民の文化財愛護意識の高揚を図るため、史跡の維持のためのボランティア活動や森將軍塚まつり、さらしなの里縄文まつり、荒砥城まつりなどイベントへの参加を推進します。
- ・市内にある歴史的遺産や文化財の保護・活用を図るため、市民や大学などの文化財研究活動を支援します。

③伝承活動の推進

- ・伝統行事や地域の民話や民謡などの保存と伝承活動を支援します。

指 標 名	実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
伝統行事の継承について普通以上と感じている市民の割合	40.4%(2017)	60.0%(2023)
歴史的資源の継承について普通以上と感じている市民の割合	50.0%(2017)	60.0%(2023)

8. 学校・家庭・地域との協働

「学校・家庭・地域との協働」の必要性はますます高まっています。特に、家庭におけ

る教育力の低下が叫ばれるなか、市では2016（平成28）年に「家庭教育支援条例」を制定し、家庭教育への支援を行っています。今後も、市と家庭・学校・地域との協働がいつそう進むよう、体制の強化に取り組めます。



具体的な取り組み

①学校・家庭・地域が連携して取り組む教育

- ・ 基本的生活習慣や社会的マナー、自制心、自立心などの育成を図るため、家庭・学校・地域が連携して、家庭教育に関する学習の機会や情報の提供を進めます。
- ・ 青少年の団体生活におけるマナーの向上及び主体的な活動意欲の醸成を図るため、生活体験型の交流事業などを進めます。

②地域ではぐくむ健全な心と体

- ・ 補導活動従事者などが定期的に巡回し、ぐ犯・不良行為少年などを早期に発見、注意、助言、指導するなど、非行を未然に防止する活動を進めます。
- ・ 青少年非行の助長及び非行の誘因となる恐れのある社会環境などに対し、補導活動を通じ、店舗の環境チェックなどの強化を図るとともに、地域・市・事業者が連携・協力し、有害環境を防止する市民運動を進めます。
- ・ 「地域の子どもは地域で育てる」という視点から、子どもたちと地域の人たちが触れ合える機会を創出する「子どもの居場所づくり事業」及び「地域ボランティア事業」を進めます。
- ・ 「子どもの手による子ども会の育成」を目標に、子どもたちが中心になって、いきいきと子ども会活動ができるよう「子ども会育成連絡協議会」の主体的活動を支援します。
- ・ インターネットや携帯電話などのメディアによる有害環境から子どもを守る取り組みを推進します。
- ・ 福祉施設や生活体験型の交流事業などの充実により、創造性や社会性に富んだ子どもの育成を図ります。

③文化・スポーツに親しむ環境の整備

- ・ 地域の伝統文化や歴史的遺産に触れ、学ぶ環境づくりを推進します。
- ・ スポーツ活動に参加しやすい環境の整備を進め、気軽に芸術活動に触れることができる機会を提供します。

指 標 名	実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
ひまわりっ子登録店舗数の割合(千曲市内の青少年健全育成協力登録店舗数)	85.0%(2017)	88.0%(2023)

第3章 新しい時代を拓く

—学んだ成果の中から、千曲市に新しい知恵が生まれる—

生涯学習社会では、学んだ成果が適正に評価されます。つまりその人がどのくらい学んできたかで評価されます。学んだ知識や技能を自己満足だけに留めるのではなく、地域に還元していくことが大切です。

人から人に「学び」が受け継がれていけば、そこから新しいアイデアが生まれます。それを伝えていけば、千曲市の将来に役立つ新しい知恵が生まれ、未来への扉を開く大きな力になります。

1. 成果の発表と評価

学習成果の発表は、その人の新たな評価につながり、地域社会における活躍の場へと導きます。市では、学習の成果発表の機会を図り、千曲市生涯学習人材バンクへの登録等を進め、情報の提供に努めます。



具体的な取り組み

①学習成果の発表と場の充実

- ・ 学習の成果を発表する機会と場の充実を図ります。
- ・ 指導者を発掘し、生涯学習人材バンクへの登録を促進します。
- ・ 地域リーダーとなる人材の育成を進めます。

指 標 名	実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
生涯学習人材バンク登録者数	個人 16 人 団体 10 団体(2017)	個人 50 人 団体 20 団体(2023)

2. 地域への還元

学んだものを地域に還元していくことはとても大切です。学んだ成果からは新たな学習意欲と、「人に教えよう」という意識が育ちます。市では、成果の発表で得た情報を精査し、個人・団体・サークルなどと協力しながら、生涯学習で培った成果を、地域において有効に活用できるよう支援します。



具体的な取り組み

①学習成果の活用

- ・ 地域に還元意識啓発のための取り組みを推進します。
- ・ 学習成果の活用に向けた支援体制を確立します。
- ・ 指導者の養成と生涯学習人材バンク制度の整備充実を図り、その活用に努めます。

3. 生涯学習を推進するために

生涯学習の推進は、行政だけで取り組む課題ではなく、市民・地域・行政がそれぞれの役割を果たし、民間や各種団体、NPO など他機関と協力しながら進めることが大切です。

(1) 市民の役割

学習への意識や意欲さえあればいつかは学ぶ機会が訪れます。学ぶことは次のステップの学習意欲に結びつき、楽しみや生きがいをもって日々の生活を送ることができます。

市民一人ひとりが生涯学習を理解し、年齢や性別等に関わらず、自覚を持って学習に取り組み、自己を高めていくことが求められます。

具体的な取り組み

①学習活動への啓発

- ・ 市民が学習意欲を持ち続けられるよう、生涯学習の啓発活動を進めます。
- ・ 市民の目につきやすく、親しみやすい学習情報を研究し、提供します。

②学習参加の推進

- ・ イベントやスポーツ、文化活動に市民の積極的な参加を推進します。
- ・ 地域において、学習、スポーツ、文化活動に親しむ環境づくりを進めます。

(2) 地域社会の役割

地域社会では、地域住民同士が助け合い、支え合って生活しています。地域住民の交流によってそれぞれ個々の能力を高め、よりよい地域社会を築くことが地域の役割です。

子どもたちを育てていくには、高齢者の知恵や経験なども必要です。地域全体で子どもたちを見守り、育てていくことが求められています。



具体的な取り組み

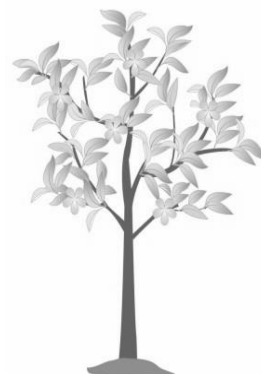
①地域住民の参加促進

- ・地域の伝統文化や歴史的遺産に触れ、学ぶ環境づくりを進めます。
- ・スポーツ活動への積極的な参加や、芸術活動に触れる機会を提供します。
- ・少子高齢化に伴う地域の公民館活動等における担い手の不足や高齢化を克服するための対策を検討します。

(3) 行政の役割

「生涯学習に関する市民意識調査」の結果を踏まえ、これまで行ってきた生涯学習の内容を検討し、新たな施策に取り組んでいきます。

市では、市民に生涯学習の必要性を喚起し、さまざまな学習機会の提供、学習情報の提供、学習の場の整備などを進めます。



具体的な取り組み

①生涯学習体制の推進

- ・生涯学習推進体制の充実を図り、生涯学習を積極的に推進します。
- ・学習情報を収集し、情報機器の活用、市報やホームページなど多様な媒体を活用し、情報提供を行うとともに、市民の学習相談に応える総合的な相談体制の整備を図ります。

②生涯学習施設の整備・充実

- ・多様化する市民の学習ニーズに応えるため、公民館や図書館などの施設の整備・充実を図ります。
- ・生涯学習の拠点施設となる生涯学習センター及び公民館のあり方についての調査・検討結果を踏まえた機能、体制づくりを進めます。
- ・体育施設など生涯学習関連施設の整備・充実を図り、利用促進に努めます。

③地域づくり活動の支援

- ・「地域づくり計画」制度を協働の理念に沿った仕組みの中で定着が図られるよう見直しを行い、広範な市民の参画による地域の主体的なまちづくりを育てます。
- ・地域の取り組みを支援する職員のパートナーシップ制度を充実・強化します。
- ・地域の課題を解決するための組織として、区、自治体の枠にとらわれない新たな単位としての体制確立に向けた機運を高めます。

指 標 名	実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
生涯学習の講座数(延べ)と参加数(延べ)	1,196 講座 24,084 人(2017)	1,500 講座 25,000 人(2023)

(4) 他機関との協働

生涯学習には他機関との協働が必要です。それぞれがお互いに補完し合うことで、より良い学習環境が生まれます。専門的な分野の学習においては、市では他機関と協力し、連携しながら生涯学習を進めていきます。

具体的な取り組み

①他機関との連携・協力

- ・大学、技術専門校、試験研究機関等との連携を図りながら、人材の育成に努めます。
- ・市内の中学生、高校生との協働による千曲市の魅力アップや、さまざまな課題の解決に向けた取り組みを進めます。
- ・郷土出身者や市と交流の深い市外住民などとの人材ネットワークを構築し、UJI ターン希望者を増やします。
- ・防犯関連団体・機関や地域と連携し、市民の防犯意識を高めます。
- ・民間の学習事業者や教育関係団体・NPO との連携・協力を図ります。
- ・生涯学習出前講座の活用・促進を図ります。

指 標 名	実績値 (データ年度)	目標値 ()目標年度
生涯学習出前講座利用件数	45 件(2017)	50 件(2023)

資 料

千曲市生涯学習推進本部員名簿

役職名	氏 名	所 属 団 体 等
本部長	山本 高明	副市長
副本部長	赤地 憲一	教育長
本部員	濱田 弘子	学識経験者
〃	宮坂 仁三	〃
〃	風間 美恵子	〃
〃	杉浦 一弥	〃
〃	竹内 長生	〃
〃	若林 昌二	〃
〃	小林 京子	市社会教育委員代表
〃	宮崎 衛	市公民館運営協議会代表
〃	吉池 武彦	市子ども会育成連絡協議会代表
〃	亀山 正明	市文化芸術協会代表
〃	北澤 和明	市スポーツ協会代表
〃	森 義一郎	市区長会連合会代表
〃	笠井 雪子	市男女共同参画推進連絡協議会代表
〃	鹿田 信次	市老人クラブ連合会代表

千曲市社会教育委員名簿

役職名	氏 名	所 属 団 体 等
委員長	堀口 強	社会教育
副委員長	小林 京子	社会教育
委 員	白石 もと子	社会教育
〃	鎌林 清美	社会教育
〃	小林 いせ子	社会教育
〃	児玉 みどり	学識経験者
〃	小松 信美	学識経験者
〃	田嶋 一利	社会教育
〃	小宮山 司	社会教育
〃	丑丸 明英	学校教育(校長会・埴生中)

策定までの主な経過

2018 年（平成 30 年）4 月～12 月

期 日	会 議 等 名	内 容
7 月 10 日	アンケート調査実施	8 月 10 日までアンケート調査
9 月 20 日	アンケート集計終了	アンケート結果の分析と検討
10 月 19 日	社会教育委員会議（第 3 回定例会）	アンケート結果及び生涯学習基本構想策定について説明
12 月 18 日	第 1 回千曲市生涯学習推進本部会議	生涯学習基本構想素案の検討
12 月 19 日	社会教育委員会議（第 1 回臨時会）	生涯学習基本構想素案の検討

2019 年（平成 31 年）1 月～3 月

期 日	会 議 等 名	内 容
1 月 22 日	社会教育委員会議（第 2 回臨時会）	生涯学習基本計画案の検討
1 月 24 日	千曲市生涯学習推進本部会議（第 2 回）	生涯学習基本計画案の検討

1 月 25 日	パブリックコメント募集	電子申請サービス利用
2 月 25 日	パブリックコメント終了	意見・要望等 なし
3 月 27 日	千曲市教育委員会 3 月定例会	生涯学習基本構想・基本計画の 策定に係る最終案の議案提出

生涯学習に関する市民の意識調査

2018 年（平成 30 年）7 月 10 日から 8 月 10 日にかけて「生涯学習に関する市民の意識調査について」と題するアンケート調査を実施しました。該当者にアンケート用紙を郵送し、インターネットでも回答できる旨を通知し、8 月 24 日までの回答を依頼した。その結果、356 人の市民から回答を得た。

調査の目的

・千曲市が生涯学習を推進するために、市民意識を把握し、第二次生涯学習基本構想・基本計画の基礎資料を作成することを目的とする。

調査実施方法・期間

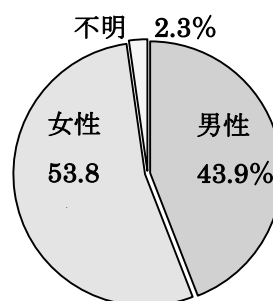
- ・対象者：市内に住所を置く 18 歳以上 80 歳未満の市民 1,100 人
平成 30 年 7 月 1 日現在の住民基本台帳をもとに無作為に抽出
- ①男女の人口比率、②各年代の人口比率（10 歳代《18 歳・19 歳》、20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳代）、③市内 3 地区の人口比率
- ※同一世帯内では複数抽出しない
- ・期 間：平成 30 年 7 月 10 日～8 月 10 日

回収結果

- ・回答者 356 人（回収率 32.4%）

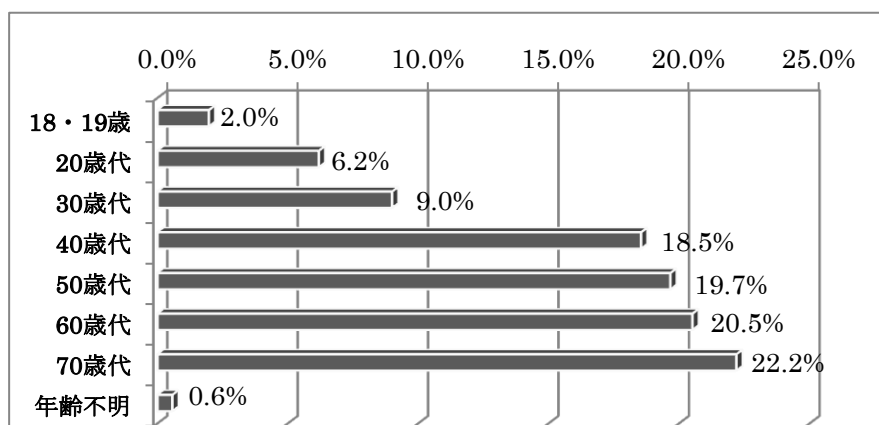
回答者の内訳（ ）はインターネットでの回答者数

男 性	女 性	不 明	合 計
157(20)	191(18)	8	356(38)



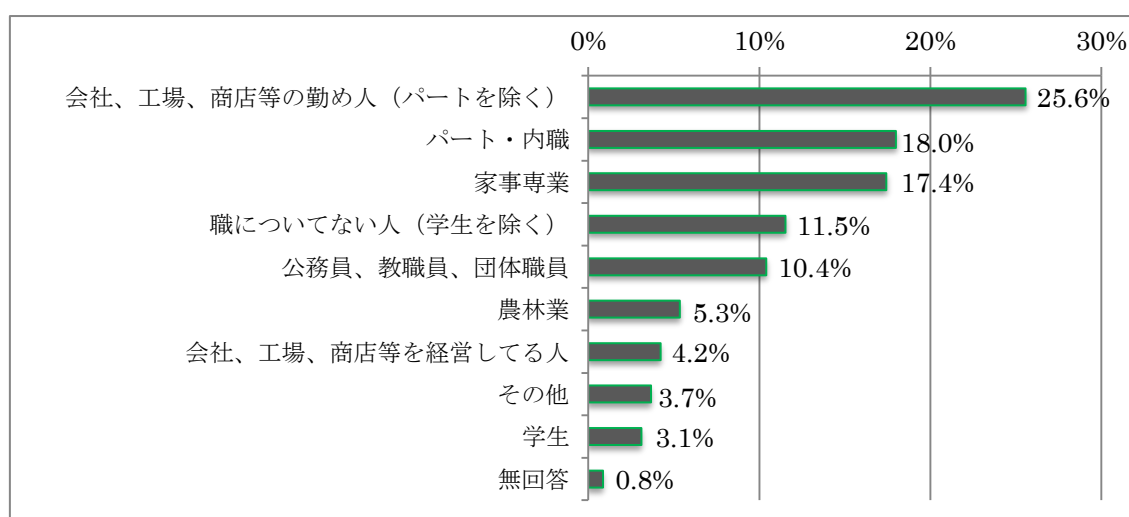
年齢別回答者数

年代	人数
18・19 歳	7 人
20 歳代	22 人
30 歳代	32 人
40 歳代	66 人
50 歳代	70 人
60 歳代	73 人
70 歳代	79 人
年齢不明	2 人



回答者の職業

職 業	人数
会社、工場、商店等の勤め人(パートをのぞく)	91 人
パート・内職	64 人
家事専業	62 人
職についてない人(学生を除く)	41 人
公務員、教職員、団体職員	37 人
農林業	19 人
会社、工場、商店等を経営してる人	15 人
その他	13 人
学生	11 人
無回答	3 人
合 計	356 人



第二次千曲市生涯学習 基本構想・基本計画

発行日 2019 年 3 月

発 行 千曲市・千曲市教育委員会

編 集 千曲市教育委員会 生涯学習課